



第一〇二號

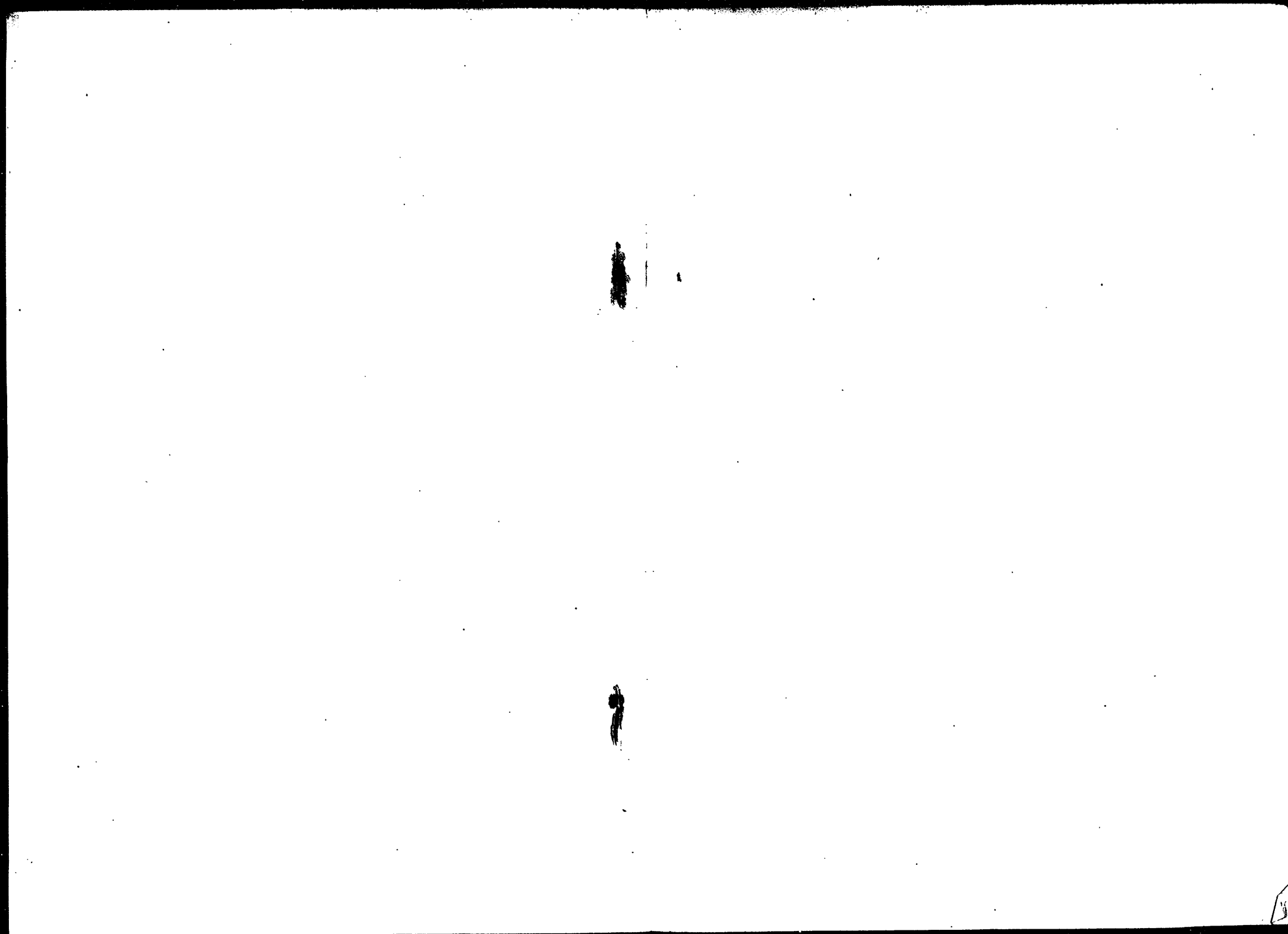


熱帶産業調査會叢書第四號(在廣東帝國總領事館調查)

最近の海南島事情

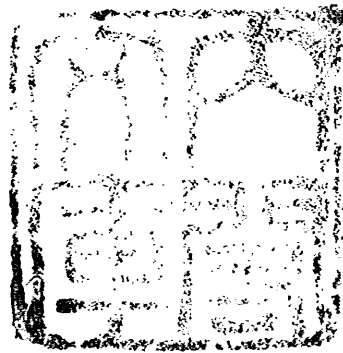
臺灣總督府熱帶産業調査會

2
2



内閣文庫	
和書	ハ 三 三 六 号
	一 冊

292
242



凡 例

- 一、本書は在廣東帝因總領事館の調査になりたるものを、同館の許可を得て印刷に付せるものなり。
- 一、本書は閱覽の便を圖り騰寫に代るに印刷を以てせるに止まり敢て公刊せんとするものに非ず。
- 一、本文中の句讀、句點は本會に於て便宜上付せるものなり。
- 一、本文中數字其の他記載に付統制上又本會に於て若干改めたるものあり。
- 一、本書は機密に亙る事項記載せられ居るを以て取扱上慎重を期せられたし。

昭和十二年五月

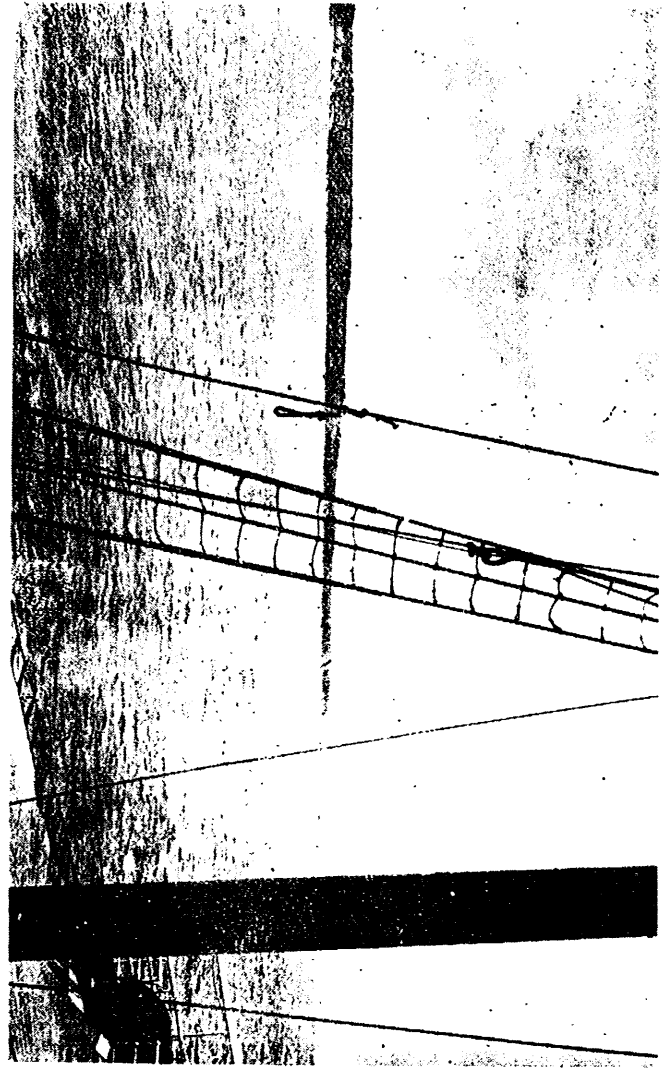
臺灣總督府熱帶産業調査會

最近の海南島事情

目次

第一節 位置及面積	一頁
第二節 地勢(山嶽、河川、港灣)	一
第三節 沿革	八
第四節 氣候	九
第五節 交通	三
第六節 都邑	六
第七節 民族及言語	二
第八節 宗教及教育	五
第九節 財政及金融	七
第十節 礦業	三
第十一節 漁業及鹽業	六
第十二節 農業	元
第十三節 貿易	四

島南海の望りよ上海

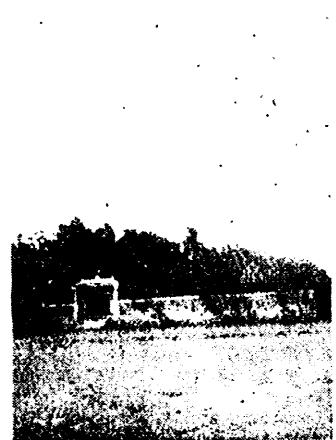




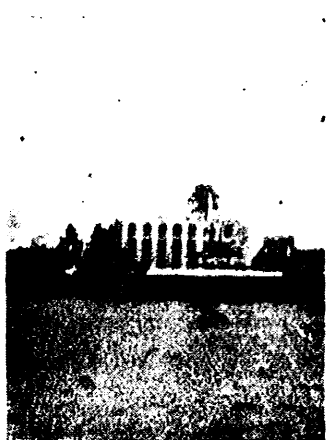
上 同



館事領國佛口海



園 公 同



關 海 同



上



同

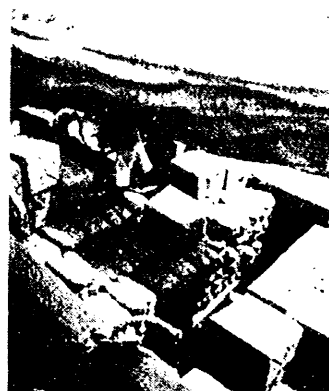
會教老長國米口海
院醫音福の營經



環耳の子女黎俵



出 産 の 豚 同



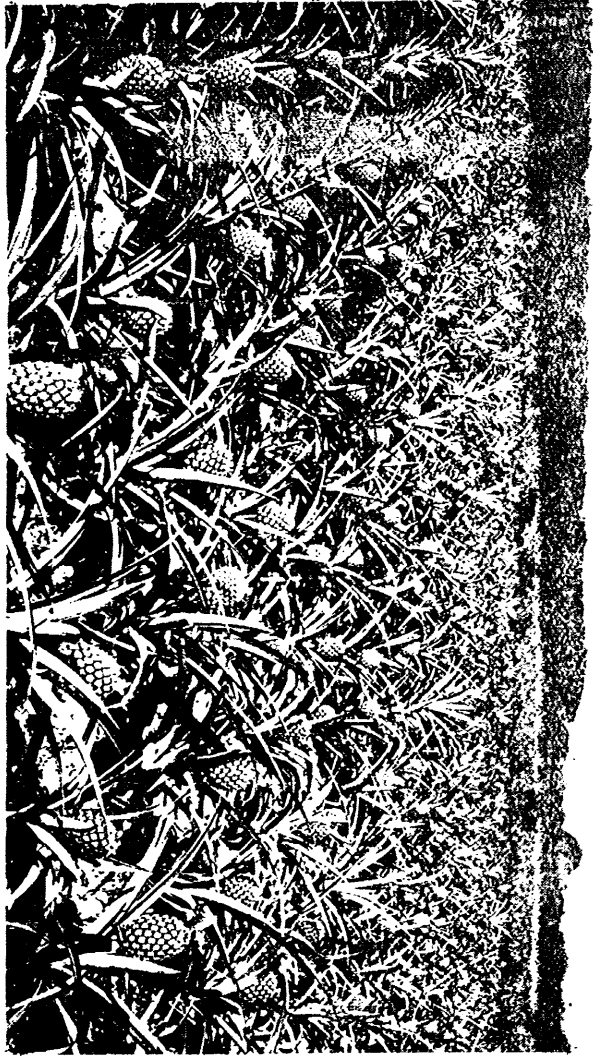
出 産 糖 砂 の 口 海



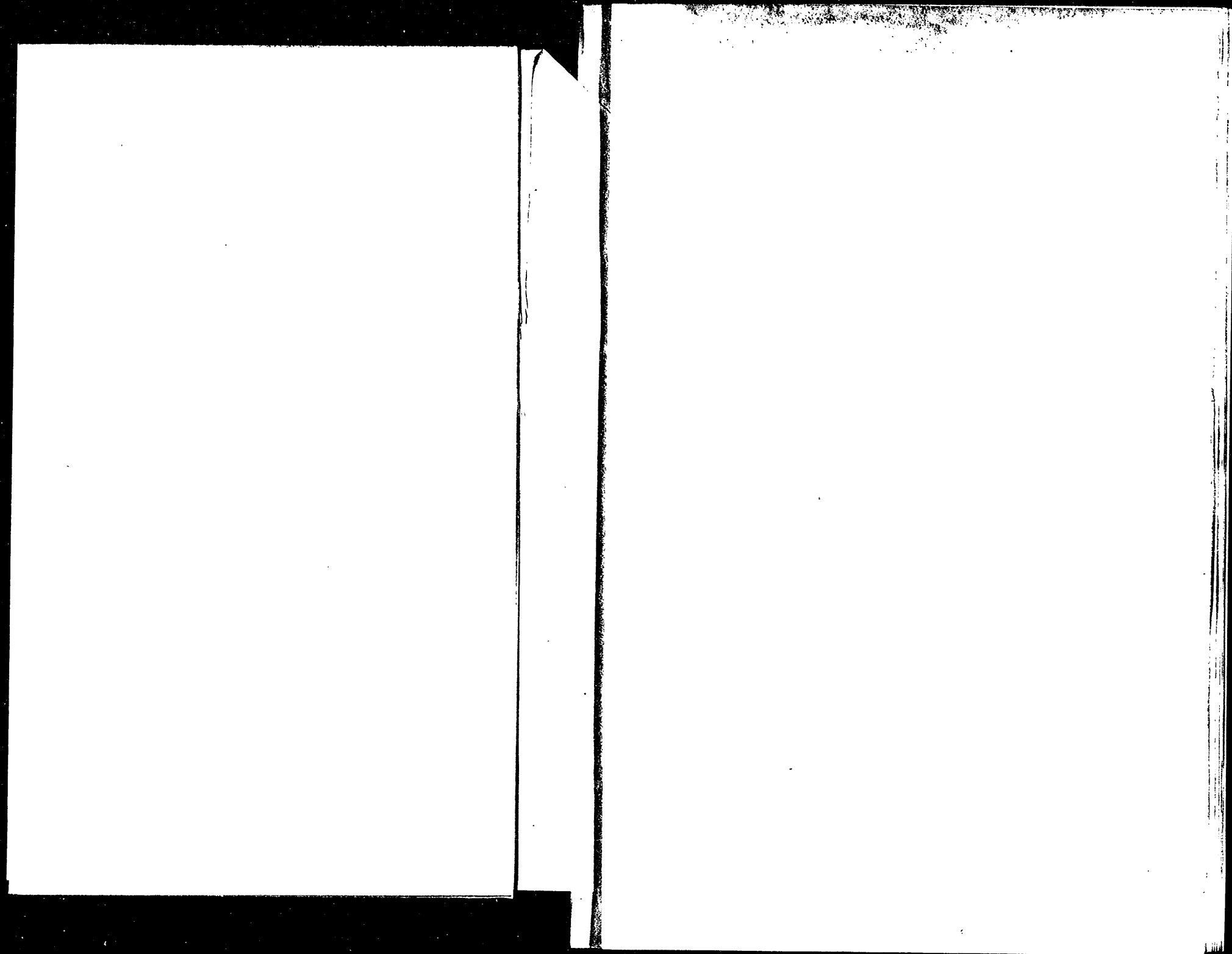
出 産 の 牛 水 同



る 在 に 間 中 の 州 境 ・ 口 海
地 墓 人 木 日 の 中 地 墓 人 外



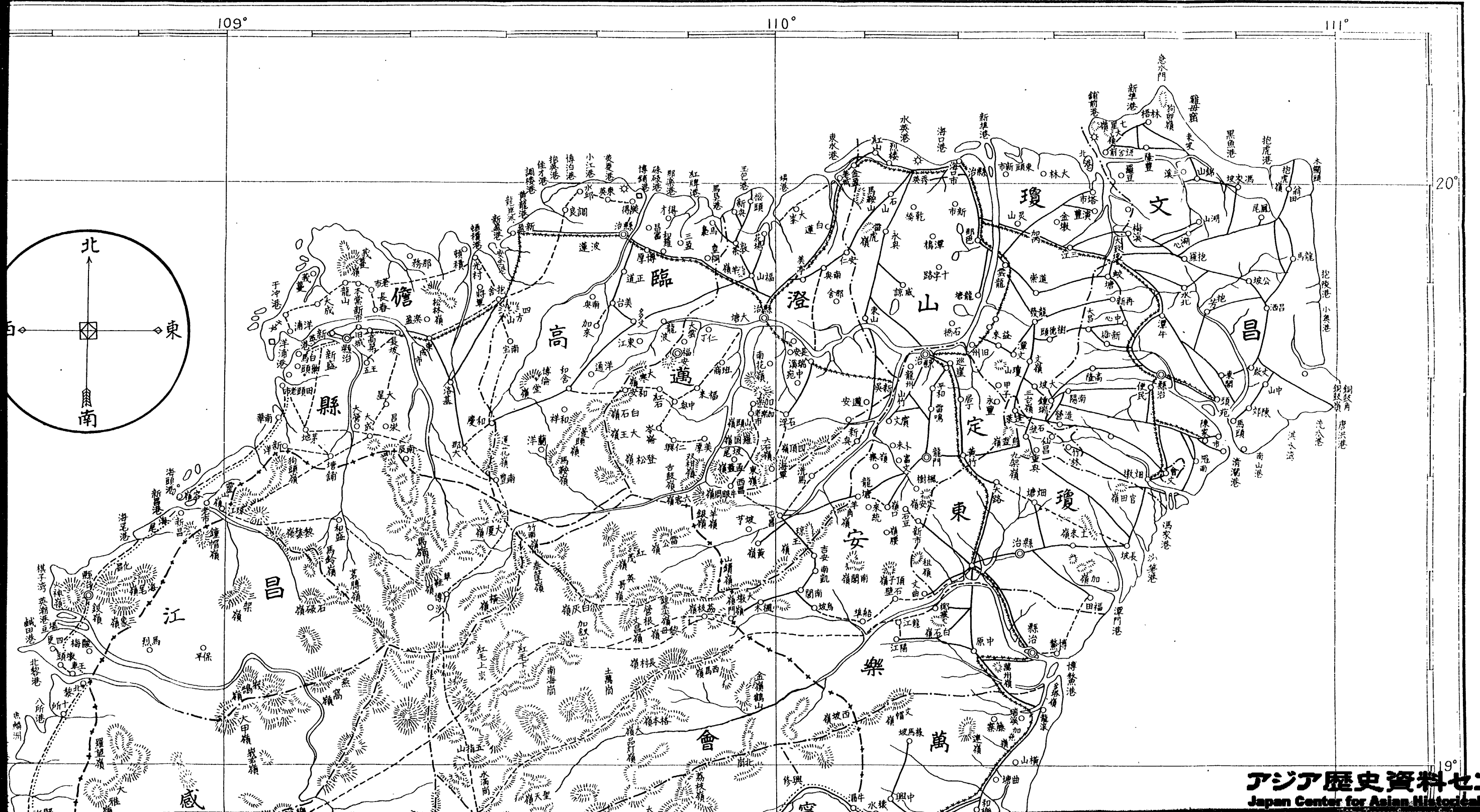
ルブツアツノイバの園農田間勝口海



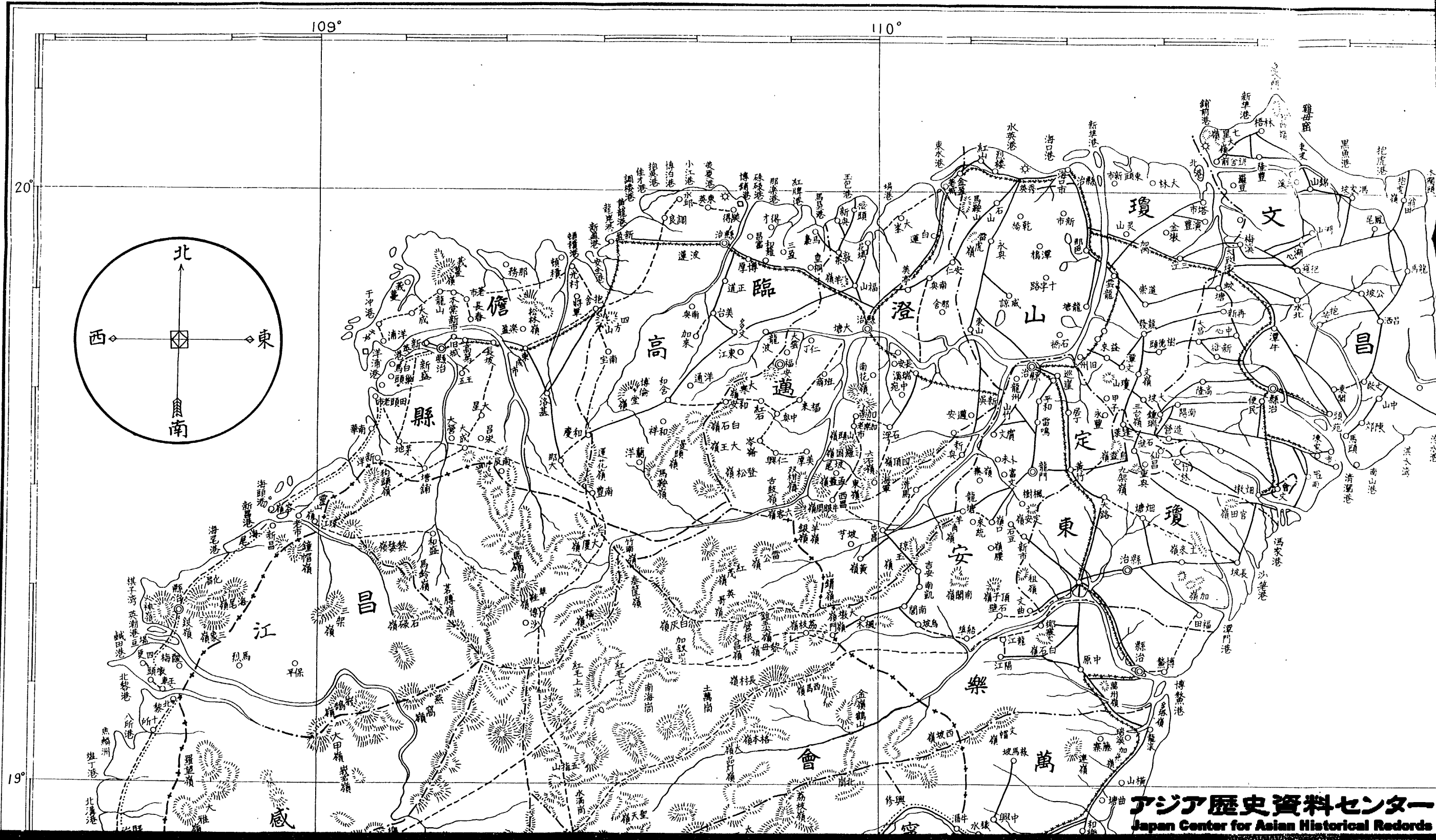
1 : 30

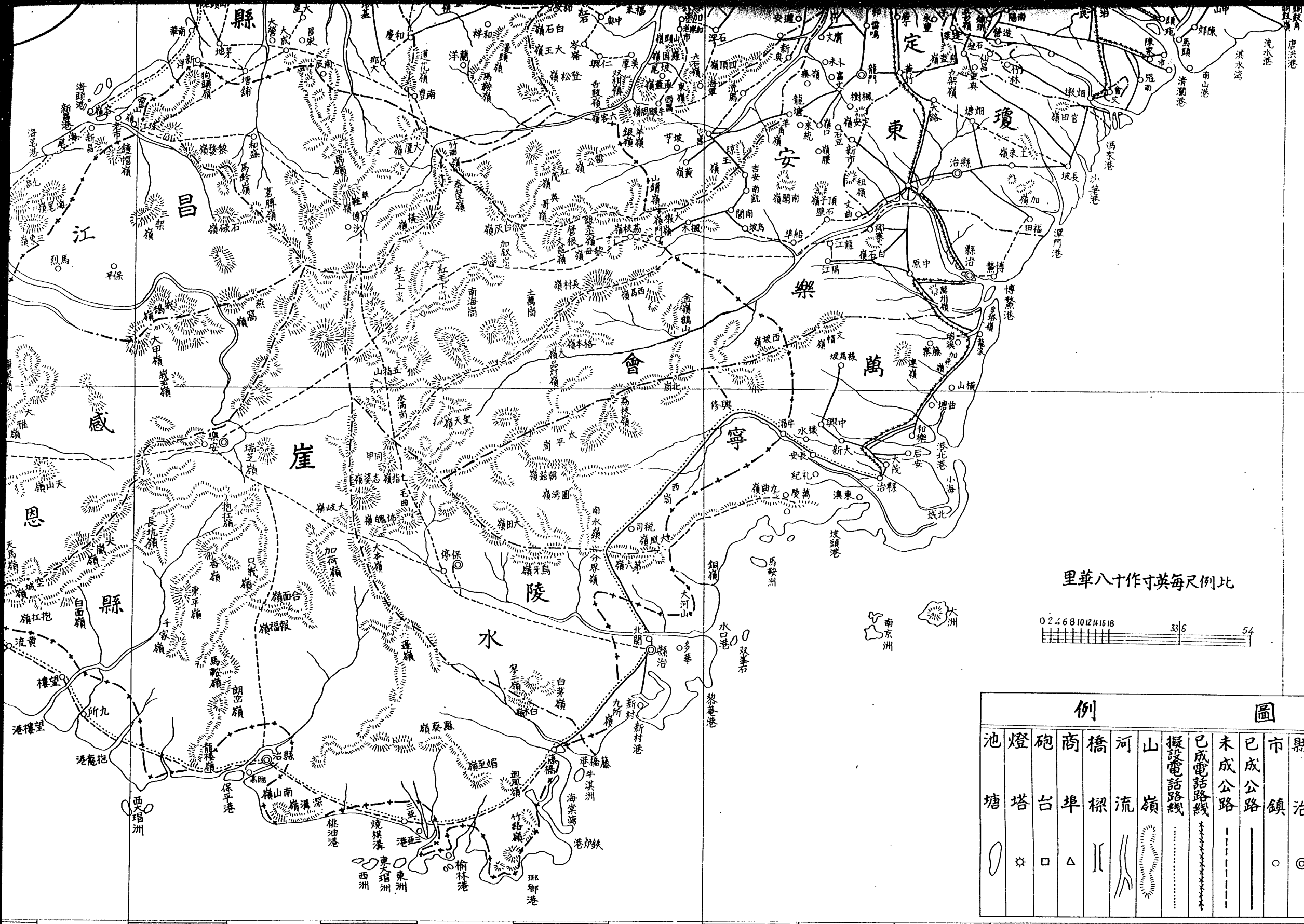


圖全島南海



圖全島南海





里華八十寸英每尺例比



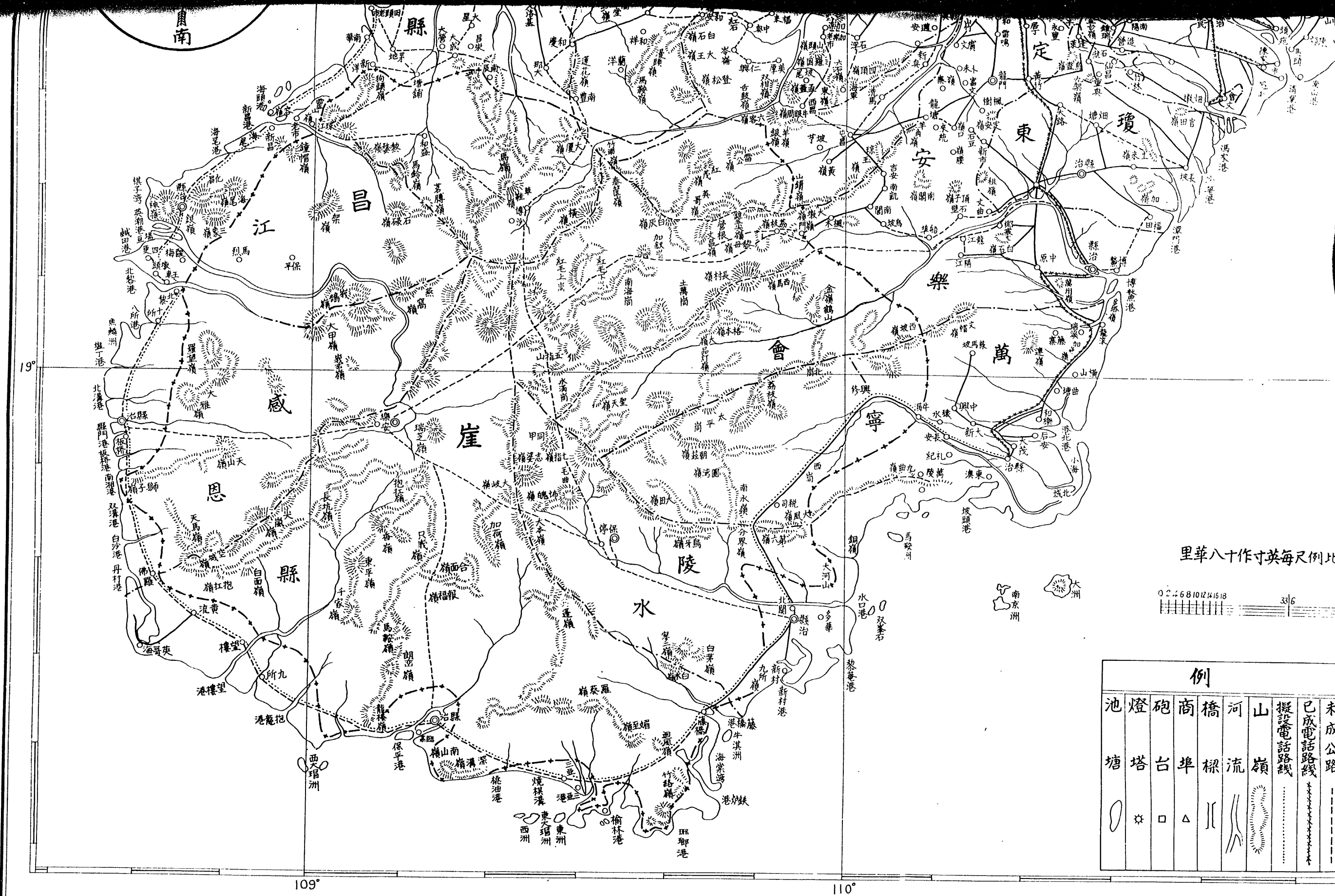
例 圖													
池	燈	砲	商	橋	河	山	擬	已	已	市	縣	黎	縣
塘	塔	台	埠	樑	流	嶺	設	成	成	鎮	治	界	界

109°

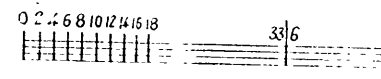
110°

111°

19°



里華八十作寸英每尺例比



例									
池	燈	砲	商	橋	河	山	擬	已	未
塘	塔	台	埠	樑	流	嶺	設	成	成
							電	公	公
							話	路	路
							路	線	線
							線	線	線
							線	線	線

裏面白紙



1 : 25

最近の海南島事情

第一節 位置及面積

本島は北緯十八度九分より同二十度二分、東經百八度三十秒より同百十一度二分三十秒の間に在り、西は安南を望み、南は南洋群島を控へ、東は比律賓に、北は海南海峡を隔て、雷州半島に相對す。其の面積は未だ正確なる測量行はれたることなく、諸説各異なれりと雖も、民國十六年陸軍測量局製圖に據れば東西二十五萬米、南北二十二萬米、全面積約九萬七千二百方支里（二、七〇〇方里）にして、我が臺灣より約三百七十方里大なりとす。

第二節 地勢（山嶽、河川、港灣）

一 山嶽

本島の地勢は中部は高く海濱は緩慢なる傾斜を爲して低下し、五指山中央部に兀起し、樂會、萬寧、陵水、崖縣、感恩、昌江六縣の各山は即ち其の分支にして瓊山、定安、澄邁、臨高、儋縣の南部諸嶺は其の餘脈なり。南渡江は北流し、寧源水は南流し、嘉積溪は東部を貫通す。昌化江蜿蜒して西に向ひ、陵水東南方に流れて海に入る。此等諸江亦其の源を五指山に發す。五指山は海拔五千八百七十尺、花崗岩より構成せられ、其の支脈西北に伸び、定安縣に於て

は南牛嶺、南開嶺となり、瓊山縣に在りては嚴嶺、海公嶺、澄邁縣の銀嶺、雙柑嶺、臨高縣の白石嶺、南豐嶺、儋縣の紗帽嶺、洛基嶺となる。此等諸山亦皆花崗岩よりなり、山勢峻烈にして多くは穹狀或は帶狀を爲し溪谷累見す。東は樂會より西は儋縣に至る迄實に一大侵入岩體の山岩系を爲せり。

本島北部海濱は東は文昌縣清湖港より西は儋縣の新英港に至る間、海岸線曲折多く多數の小港入江あり。又東西に走る火山帯あるも山高からず平原多し。

二 河川

本島河川は悉く五指山に發す。其の主要なるものを擧ぐれば左の如し

南渡江 臨高、澄邁、定安、瓊山の四縣を流れ、本島第一の河川にして本支流合計三百四十餘支里に及び、海口より

定安縣に至る間は二百餘積の帆船航行可能なり。

龍滾河 樂會、定安、瓊東の三縣を東流し博黎港に入る。全長約七十支里あり、龍滾、嘉積間の水運は全く之に依

る。

陵水河 定安、陵水二縣を東南流し水口港より海に入る。長さ約百八十支里、水口港より石峒棧に至る間百三十支里

は帆船の通航可能なり。

昌化江 定安、崖縣、感恩、昌江の四縣を西流し、長さ約三百餘支里あるも舟楫の便なし。

北門江 儋縣那大市附近より發源し新英港より海に入る。長さ約二百支里あるも通航可能なるは下流約十餘支里に過ぎず。

文昌江 復洞溪とも稱し三支流あり、悉く文昌縣城に會す。

文昌縣城より清湖港に至る間約四十支里は百餘積の帆船通航可能なり。

其の他安仁溪、平昌江、萬泉河、大陽河、金仙河、藤橋水、三亞水、寧遠河、望樓河、感恩水等あるも水運の便大ならず。

三 港灣

本島は海南海峽を隔て雷州半島に連り、四面海に面し海岸線の延長二千餘支里を下らざるも良港に乏し。今其の主なるものを擧ぐれば左の如し。

海口港 本港は海南島瓊山縣の北部に位し、瓊山城を去ること約三哩、南渡江之より海に入る。港内沙灘多く水淺く

水路狹隘にして大小汽船は沿岸に繋留し得ず、港外を距る三哩の沖合に停泊せざるべからざるを以て、貨客の

揚下しは悉く帆船に依る。而して帆船にて港岸に達するには滿潮時順風の際にも約二時間を要し、逆風干潮

時に於ては五六時間を要するのみならず、一旦風浪起れば汽船は船用梯を下ろすこと能はず、旅客は繩梯に

依り帆船に乘移らざるべからず。港岸に近づくに従ひ益々淺く、帆船より下り更に小帆船にて上陸地點に至

る。其の間帆船の通行困難なる場所は苦力の背に負はれて他の帆船に移乗せざるべからざる状態にして、港内

の交通は極めて不便なり。海口が如斯不便なる港灣なるにも拘らず克く本島商業の中心地たるは、一衣帶水雷

州半島を指顧し、民船にて半日の航程により徐間に到着し得る地の利を有するがためなり。一八五八年の英

佛清開天津條約に依り瓊州開港場となりたるも、一八七六年海口に海關設置せられ、事實上此の地を以て開港

場とせられ、香港との交通開け又南渡江に依る水運の便あるも、開港以來數十年を閱したる今日に於ても大なる

發展を見ざるは一に港灣の不良に因る。而して從來海口の築港問題屢々論議せられたることありしが、時



局其の他の關係に依り實現を見るに至らず。一九二八年時の廣東南區善後公署委員黃強の發起にて和蘭治港會社技師をして設計せしめ、輸出入貨物より附加税五分を徴收し、六十萬元の豫算を以て港岸椰子園現在の海口公園より約二哩の砂洲に道路を建設せむと計畫せられたることあり。然れども未だ幾許もなくして黃強の轉任となり實現を見ざりしが、一九三六年十月黃強同地に瓊崖行政督察專員として赴任するや、新に豫算二百萬元を以て築港道路を計畫中なりと謂ふ。又海口は前記の通り港灣の設備不良なるのみならず、木蘭頭及急水門と稱する急潮の箇所あり、大型汽船入港し得ざるを以て、東海岸の清瀝港を開港せば海口の繁榮を奪ひ勢ひ衰微すべしと云ふものもあるも、海口は雷州半島徐聞と相距ること僅かに八十支里にして、大陸との交通は地勢上海口を以て最適地と爲すのみならず、既述の如く南渡江の河口に當り奥地と水運の便あり。現に香港海防新嘉坡間を航行する三四千噸級の汽船此の地に寄港し居り、人口五萬餘あり、依然本島の第一港たるを失はざるべし。

最近三箇年間同港出入船舶狀況左表の如し。

年 別	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸
人 港 外	三三	四三五六八	四〇三	四四九九五	四四	四九三六〇
内 國	一〇	一〇三〇〇	一〇	一三六五	一	一八八三
合 計	四三	五三九六八	五三	五八六〇	五八	六七四三三

出 港 合 計	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	國	噸	國	噸	國	噸
外 國	三三	四三五六八	四〇三	四四九九五	四四	四九三六〇
内 國	一〇	一〇三〇〇	一〇	一三六五	一	一八八三
合 計	四三	五三九六八	五三	五八六〇	五八	六七四三三

海口港に寄港する船舶名並に所屬會社

- 一、船會社 太古洋行 (Butterfield & Swire) (英國)
- 船名 瓊州 (Kwangchow)、廣東 (Kwangtung)、嘉應 (Kaying)、廣州 (Kwangchow)
- 寄港地 香港起點
- 上海、廈門、汕頭、廣東、香港、海口、北海、海防
- (ロ) 船名 美南 (Minnan)
- 寄港地 香港起點
- 廈門、汕頭、香港、海口、新嘉坡
- 二、船會社 和成輪船公司 (中國)
- 船名 太平洋
- 寄港地 香港起點
- 海口、北海、西貢
- 三、船會社 平安航業公司 (支那)

船名 赤坎 (Tchakan)
寄港地 香港起點

香港、海口、北海、ツローン

四、船會社 法國郵船公司 (Compagnie Indo chinoise De Navigation) (佛國)

船名 博杜美 (Paul Drumet)

寄港地 海防起點

海防、北海、海口、廣州灣、香港

五、船會社 德利士輪船公司 (Douglas Steamships Co, Ltd.) (英國)

船名 海澄 (Haining)

寄港地 香港起點

香港、海口、北海

六、船會社 多利臣洋行 (Thornson & Co.) (諾威)

船名 海興 (Haining) 海利 (Halle)

寄港地 香港起點

香港、海口、北海、新嘉坡

上記各國の汽船會社中定期に海口へ寄港するものは太古汽船及法國郵船の二社なるも、定期を變更すること屢々なり、大正四年大阪商船會社は香港、北海、海防航路を開設し、大華丸及京城丸の二船を配船し、四箇月間海口に寄港し

たることあり、一時相當利益を擧げたるが其の後停止せられ、大正十年山下汽船會社が一時寄港したることあるも、間もなく中止し、之と前後して大阪商船會社船再び海口に寄港したるも、滿洲事件の影響を受け中止し今日に及べり。

舖前港 文昌縣の西北隅瓊山縣境に在り。昔日は船舶の出入旺盛を極めたりと雖も、近時清瀾港に奪はれ、現在は僅かに二千擔餘積の帆船運羅、安南、江門、澳門及陵水縣等を往來するに過ぎず、海口とはモーターボートの便あり約二時間にて達し得べし。

清瀾港 文昌縣の東南隅に在り、港口に大なる珊瑚礁あるため五百噸以上の汽船は出入し得ざるも、平昌江東北及文昌江東北より此の港灣に注ぎ、奥地との交通頗る便利なり。大型帆船數十艘本島各港間及香港、澳門、江門、北海、安南、新嘉坡、暹羅等に往來し、陸路は北は海口、南は嘉積と連絡す。且つ本港は東亞歐洲及南洋航路として海口の如く、木蘭頭及急水門の險を通過せず寄港し得るを以て、民國初年に華僑に依り築港を計畫せられ、資本金百萬元の清瀾商埠有限公司を組織し、計畫相當進捗せられたりしが、歐洲大戰に際會し資金の調達困難となり中止せられたり。

榆林港 本島の南端に位し鐵爐三亞兩港の間に在り。崖縣城を距ること百二十支里、安南の陀林灣と相對す。東西北共に山岳に圍まれ、水深く島内第一の良港にして、大艦隊を容るゝに足ると稱せらる。民國廿五年末宋子文の海南島開發計畫として傳へらるゝ所に據れば、支那政府は本港に五百萬元を投じ之を軍港と爲さむとするものゝ如し。港内には岩礁多く若し之を除去せば吃水二十五呎の船舶は自由に出入するを得て、絶對安全なる碇泊地となるべし。南洋群島との交通上重要な港灣にして漁業盛大なり。附近に鹽田多く鹽の産額年々増加しつゝあり。



三亞港 榆林港と山を隔て、僅かに六支里、サロモン角西方端地を謂ふ。是れ亦内外二港より成り、三亞、大坡、臨川の三水之に入る。千餘瓊積の帆船の出入自由にして、魚類及鹽の産額大なり。

新英港 儋縣城を距ること約十支里、北門、新昌の兩江之より海に注ぎ、現に四五百噸の汽船出入し、對岸北海を臨み大陸との聯絡上重要な港なり。

藤橋港 崖縣の最東部に位し、陵水縣との境界に在り。港口大なるも港内狭く約數百尺に過ぎず。退潮時に於ては巨船の入港不可能なるも、港口には牛珙洲島あり、西海岸より防波堤を築き右島と連結せしめ居り、數千噸の汽船を碇泊せしめ得るに至れり。

第三節 沿革

海南島は古來支那の領土なりしや否やは不明なるも、唐虞時代の南交にして、三代には揚越（百粵）の南と稱せられたり。秦時代は象郡の外徼と謂ひしが、象郡とは今の廣東省高雷、欽廉及廣西省の慶遠、太平、梧州以南並に安南の地にして、海南島は右象郡の一部に屬したり。支那政府が正式に統治を始めたは漢の武帝の元封元年にして、同年珠崖（今の瓊山縣東潭郷）儋耳（今の儋縣）の二郡を置き、玳瑁、紫貝、荷中、至來、九龍の五縣を設け、晋の太康元年には珠崖郡を除き合浦（今の欽州合浦縣）に合併したるも、宋の元嘉八年に至り同郡を復活し、梁の大同年間には儋耳を廢して崖州を置き、廣州の統治に歸せしめ、隋代には珠崖、臨振の二郡を置き、義倫、感恩、顏盧、毗善、吉安、延德、寧遠、澄邁、昌化、武徳の十縣を設けたり。唐代には瓊、崖、儋、振の四州を置き、瓊山、臨機、萬安、富雲、博遠、舍城、澄邁、文昌、義倫、昌化、感恩、富羅、吉安、寧遠、延德、臨州、陵水、吉陽の十八縣を設け、宋代には瓊、儋、

萬、崖の四州及瓊山、澄邁、文昌、舍城、臨高、樂會、義倫、昌化、感恩、陵水、寧遠、吉陽の十三縣を爲し、元の至元十五年改めて瓊州路と稱し、安撫司を設けて湖廣の行中書省に隸屬せしめ、元末の間更に改めて廣西の中書省に統轄せられ、會同定安の二縣を増置せり。明代に入りては宋の制度に倣ひ四州十三縣とせるも、洪武元年には元制を採り瓊州と改め廣西に屬せしめ、同三年更に廣東に屬せしめ、同九年佈政使司海南島と爲し、清代に至り瓊州府崖州道を置きたるが、民國に及び瓊州府を廢して瓊崖道を設け、會同を瓊東、儋州を儋、昌化を昌江、萬州を萬寧、崖州を崖縣と改稱し、之に瓊山、定安、文昌、樂會、澄邁、感恩、陵水の七縣を加へて瓊崖と總稱するに至りしが、民國八年、九年の間再び道制廢止せらるゝや、十三縣は茲に始めて廣東省政府に直接隸屬することゝなれり。民國廿五年黎族居住區域に白沙、樂東、保亭の三縣を新設したるを以て、目下合計十六縣に區分せられ、民政は瓊崖行政區の下に統轄せらる。是に依つて之を觀るに瓊崖の行政は隸屬關係に於て數次の變遷あり、宋齊以前に於ては合浦を以て政治の中心と爲し、附陳以後は或は廣西に屬し、或は廣州に屬したるが、合浦に屬したる時代は欽廉、高雷、越南と共に一政治區域となり、廣西に屬したる時代には越南、欽廉、高雷及梧州以南と共に一政治區域を爲し、廣州隸屬時代には越南、廣西より離脱して欽廉、高雷と共に一政治區域を爲せり。

第四節 氣候

一 溫度

本島は熱帶圈内に在り、氣候溫暖にして常に花を見、冬季も霜雪を見ず。蘇東坡は本島の氣候を詠して「四時夏一雨便成秋」と謂へり。民國二十二年より二十三年の間に亘り觀測せられたる瓊海中學農場觀測處氣候統計表に據れ

ば、六月最も熱く平均華氏八十三度（攝氏二八・三度）、一月最も寒く平均華氏五十八度（攝氏一四・四度）なり。右統計左表の如し。

月別	最高温度	最低温度	平均	月別	最高温度	最低温度	平均
一月	七五〇	四八五	六二〇	一月	七五〇	四八五	六二〇
二月	七〇〇	五五五	六二〇	二月	七〇〇	五五五	六二〇
三月	八〇〇	六五五	七二八	三月	八〇〇	六五五	七二八
四月	八四〇	七〇〇	七七〇	四月	八四〇	七〇〇	七七〇
五月	八七〇	七五〇	八一〇	五月	八七〇	七五〇	八一〇
六月	九〇〇	八〇〇	八五〇	六月	九〇〇	八〇〇	八五〇
七月	八六〇	七五〇	八〇五	七月	八六〇	七五〇	八〇五
合計	七〇二	五五三	六二八	合計	七〇二	五五三	六二八

二 風 雨

本島は中部の山嶽地帯と海濱とに依り同じからず。海岸は山少く、地勢概ね平坦にして海洋の影響を受け、氣候稍熱く風多く、中部は峻嶺多く、氣温稍低く雨量多し。風雨の季節は各地に依り多少差異あるも、大體風は初秋に多く、雨は夏末秋に多し。

(1) 風、春は東風、夏は南風、秋は西風、冬は北風多し。東南風は温暖にして西北風は冷涼なり。三四月には南風は晝間のみなるが、五月に入れば夜間にも亦多し。南風の夜は必ず雨を作ふ。北風三四月の頃に吹けば雨を呼び、五

月なれば降雨なし。六月北風あれば大雨に非ざれば颯風を起す。颯風は立冬前最も多く、東北に起れば必ず北より西に向ひ、西北に起れば必ず北より東に向ふ。小なるものは二三日、大なるものは七八日にして必ず南に轉ず。颯風は多く雨を作ふも雷鳴なし。此の外往々にして大暴風の襲來するものあり。本島雨量は瓊海關の觀測に據れば、降雨日數三年平均百三十日、雨量一千六百九十二耗三にして一月及四月雨量最も少く、六月及九月に雨量最も多し。其の統計左表の如し。

月別	降雨日數	雨量	月別	降雨日數	雨量
一月	五	一四六	一月	二	一六四
二月	三	四九	二月	二	三四四
三月	二	五〇六	三月	六	一六九
四月	三	三九	四月	二	二〇〇
五月	二	一八八	五月	六	二二〇
六月	五	三四七	六月	五	五五六
七月	二	二六五	七月	二	一六三
合計	二十	一〇二〇	合計	二十	一〇二〇

三 潮 汐

瓊州府志に據れば毎月二十五、六日潮長く、朔日最も盛にして三日後漸く退く。十一、二日又長く十五日に至り滿潮となり、十八日に及び漸次退潮す。八、九月潮勢最も盛にして又退潮少し。西北部の諸港は稍之と異なり一月、七月、十二月は一日二潮、八、九、十月は四潮、十二月は十四、二十五日に於て三潮あり。潮の干満亦四季に依り差異あり。

り。春は午後九時より十一時頃満ち、午前九時より十一時頃退潮し、夏は正午満潮となり、午前零時頃引退す。秋は午前中満潮にして、午後干潮となり、冬は午後十時頃満ち、午前十時頃に退くを常とす。臨高縣と儋縣との境界に於ける潮流には特異の點あり。臨高縣に於ては満潮の場合は西に、退潮の場合は東に流れ、儋縣は之に相反し満潮時東に流れ、退潮時西に流る、又北岸と南岸とは東西に向ひ相反して流ると稱せらる。

第五節 交通

本島は中國南部に孤懸し、古來瘴癘の蟻地と稱せられ、交通險阻なるを以て、官吏追放の所とせられたるが、現今に於ても支那本土との交通極めて不便にして唯一の海口港に於てすら、海岸より三哩の沖合に碇泊せざるべからざる状態なり。

一 水運

汽船は海口を中心として航行せられ 一、北海、香港、廣州線 二、香港、海口、暹羅線 三、香港、海口、新嘉坡線 四、香港、海口、北海線 五、香港、海口、海防線 六、香港、廣州線、海口、海防線 七、香港、海口、北海、海防線あり。香港より海口へ約二十八時間、海口より廣州灣又は北海へ約八九時間、暹羅新嘉坡へ五六日の航程なり。

島内交通には主として帆船用ひられ居るも、最近瓊南航業公司組織せられモーターボート二隻あり、海口より東西兩路に分ち航行す。但し是れ亦雨季には休航す。

二 公路

近來本島公路の發達は相當見るべきものあり。其の建設は主として軍事的見地より行はれたるものにして、環海公路延長一千七百餘支里、縣道延長六千餘支里、黎境公路一千七百餘里（一説には既成公路三千六百五十七支里、環海公路二千支里とす）ありと雖も、其の建築技術幼稚にして基礎工事堅實ならず、一たび雨天に遇へば泥水充積し車輛不通となり、其の弊西部に最も甚し。自動車公路（自動車は二百七十臺或は四百三十臺ありと謂はるゝも不明）は木材礦産物の如き重量大なる貨物を運輸すること能はず、家畜及米穀類亦自動車に依る運輸に適せず、且つ運賃過大なり。一例を示せば儋縣那大より海口に至る間は二百六十支里にして四時間乃至六時間を要し、客車賃一人大洋五元、生豚一頭及雜貨一擔大洋三元なり（十支里一人及貨物百五十斤毎に各二角五分又は二角と規定するものあり）。各縣中文昌縣公路最も發達し、次は瓊山縣にして公路最も少きは昌江、感恩二縣なり。

黎境（未開人黎族の居住區域）との交通

黎人の貨物輸送は多く人力に依り、牛馬を用ふることなきた非ざるも極めて少く、五指山西麓の水滿峒は黎境への門戸なるが、其の通路凡そ次の如し。

- (イ) 北部、定安より嶺門に至る間百八十支里、之より加釵峒に至る間七十支里、之より紅毛下峒に至る間四十支里、之より紅毛上峒に至る間四十五支里、更に之より水滿峒に至る間四十支里。
- (ロ) 南部、崖縣より樂安に至る間百八十支里、之より凡陽に至る間九十支里、之より毛鎮に至る間七十支里、更に之より水滿峒に至る間九十支里。
- (ハ) 西北部、那大より南豐に至る間三十支里、之より白沙峒に至る間九十支里、之より元滿峒に至る間八十支里、之より水滿峒に至る間四十支里。

(二) 東部、陵水より寶亭營に至る間百二十支里、之より大旂に至る間四十支里、之より同甲に至る間五十支里、之より水滿峒に至る間三十支里、大旂より水滿峒に至る間五十支里。

三 航空

本島航空路は民國二十三年十月西南航空公司に依り開始せられ廣東、茂名、海口、北海の間全線九百軒、一週二回旅客郵便物等を搭載したりしが、民國二十六年一月より航路を廣東、梅菜、海口に改めたり。其の料金廣東海口間片路法幣六十元、往復百五十元なり。

四 郵政

一等郵政局は海口に在りて全島郵政を管掌す。

(イ) 直通郵便道路

- 第一路 嘉積、定安、大路一帶
 - 第二路 文昌、蛟塘、潭牛、瓊山縣三江
 - 第三路 舖前、抱羅、錦山、演豐、羅豆一帶
 - 第四路 那大、金江、和舍、安仁、南豐一帶
 - 第五路 儋縣、昌江、臨高、澄邁、新興一帶
- (ロ) 轉遞郵便道路
- 第一路 陵水、崖縣、萬寧、樂會、瓊東一帶
嘉積局より轉遞せらる。

第二路 東郊、邁號、冠南一帶
文昌局より轉遞せらる。

第三路 感恩、北黎一帶
儋縣より轉遞せらる。

五 電信及電話

(イ) 電信は海口に有線(海底線)無線の電報局あり、廣州、北海、肇慶、韶州、惠州、汕頭、江門、虎門、高州、梧州、南寧、香港、廣州灣、海防、南洋各地並各船舶及軍艦等に通ず。

(ロ) 電話も海口に總局あり、各縣に分局を置く、海口瓊州線、海口文昌線、海口定安線、海口嘉積線、海口臨高線を幹線と爲し、其の他の市鎮に支線を設置し居れり。

六 鐵道

本島には未だ鐵道なし。曩に一九一六年五月十七日米國及加奈陀に於ける鐵道の建設事業に豐富なる經驗を有するシームス、カーレー商會(Sims & Carey)は北京政府交通部長曹汝霖との間に延長一千五百哩に亘る五箇の鐵道敷設協定を締結し、瓊州、樂會間の鐵道敷設権を獲得したるも、工事を着手するに至らず、其の後米國側は一九二〇年十月巴里に於て調印せられたる新四國借款團に對し本鐵道の敷設権を提供したり。

越えて昭和八年五月廣東省建設廳は本島開發の目的を以て海口より榆林港に至る延長七百六十支里の海榆鐵道及清瀾港より龍門に至る延長百五十支里の清龍鐵道を建設する旨發表したることあるも、經費の捻出困難なりしを以て實現を見るに至らざりしが、昭和十一年十二月初旬全國經濟委員會長宋子文は第四路軍總司令余漢謀、廣州市長曾養甫等

と共に同島視察後南京政府より五百萬元を支出し、沿岸輕便鐵道を敷設する計畫あることを發表せり。

第六節 都 邑

全島中主要なる都邑は海口、瓊州、嘉積なり。

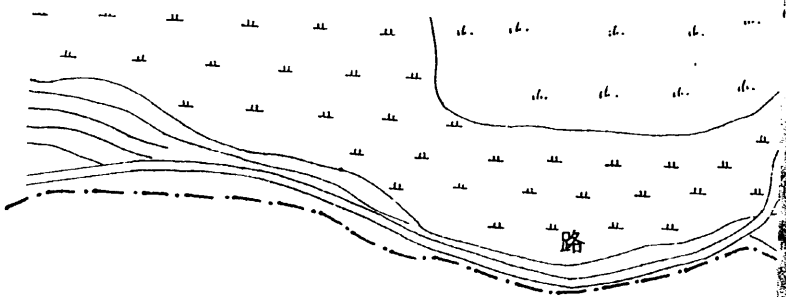
一 海 口 (瓊山縣)

海口は本島第一の都會にして、其の面積約四万里、三十餘街、商店數五百餘軒あり。中山路、北門路、博愛路、新興路、得勝沙等最も繁華にして、全戸數約四千三百、人口約五萬二千、在留外國人約四十名あり。主要商品は織物、洋雜貨、製靴、椰子殼、彫刻、米穀、綿糸、海産物、金屬品、豚牛、家禽、卵類、獸皮、檳榔、赤砂糖、乾燥荔枝、瓜子、藤、鹽、天蠶糸等なるが、海口營業稅局の調査に據れば同地營業別商店左の如し。

(一) 書籍販賣店	七	(九) 紙類販賣店	一三
(二) 醫藥洋藥販賣店並に賣藥店	二〇	(一〇) 家具製造販賣店	一五
(三) 漢藥販賣店	一〇	(一一) 九八行(プロカー兼輸出業)	二二
(四) 呉服店	一九	(一二) 南北行(プロカー兼輸出業)	二五
(五) 雜貨店	三八	(一三) 材木商	六
(六) 小規模百貨店	二	(一四) 洋酒、罐詰、ビスケット販賣店	三
(七) 陶磁器販賣店	二	(一五) 生牛輸出業	二
		(一六) 生豚輸出業	二
		(一七) 生豚輸出業	二

海口市内の營業別商店數(昭和十一年十二月七日現在)

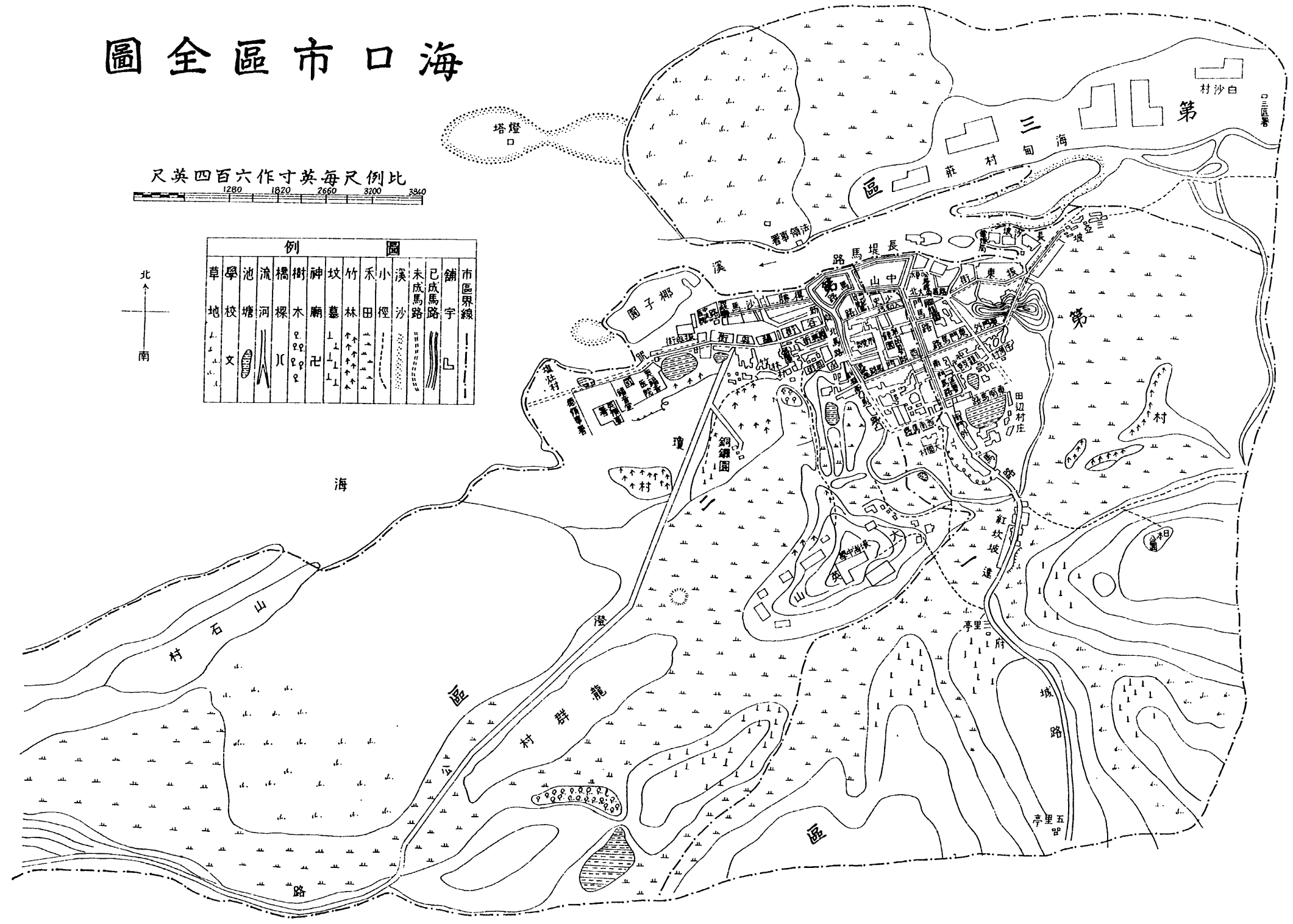
(八) 海産物並に食糧品販賣店



海口區全圖

比例尺 每英寸作六英寸 每尺作四英寸

草	學	池	流	橋	樹	神	坟	竹	禾	小	溪	未	已	舖	市
地	校	塘	河	樑	木	廟	墓	林	田	徑	沙	成	成	宇	界
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文



裏面白紙

代理店あり。本邦内地人は僅かに勝間田洋行のみなり。

二 瓊山縣城(瓊州)

瓊州は一八五八年天津條約に依り開かれたる開港場にして、海口を距ること七支里、瓊崖督憲專員公署並に瓊山縣政府の所在地にして本島政治の中心地なり。清代に於ては商業殷盛を極めたるが、外海に通ずる海關設置せられたる處其の繁榮を奪はれ日に衰微し、今や一千六百餘戸其の中商店百七十餘に過ぎず、製靴業約其の三分の一を占む。

三 便 民(文昌縣)

縣政府の所在地にして交通極めて便利なり。海外に出稼する者多く嘉積と相伯仲す。商店約三百餘戸あり。

四 嘉 積(瓊東縣)

海口に次ぐ都會なり。商店約八百、人口約六千を有し、東部地方物資の集散地たり。縣政府は東北二里の會同に在るも時として本市に移さるゝことあり、嘉積溪に臨み、之に依りて五指山及流域の土貨を吸收す。移出品は檳榔、椰子、木材、豚、紅藤、蜜糖を主と爲し約四十萬元にして、移入品は綿糸、綿布、石油、雜貨、紙、爆竹、陶器等多く約百萬元と謂はる。便民と同様華僑の出身多く、年々約百萬元の送金あり。

五 金 江(澄邁縣)

新安江の北岸に位し、縣政府の所在地なるも人口僅かに二千、商店四百餘に過ぎず。澄邁縣下の産物は皆此の地に集まり、豚、米穀、家鴨卵、砂糖、薪材等を海口に移出す。衛生状態よろしからず、毎年虎列刺の發生を見る。

六 新 英(儋縣)

新英港の東岸に位し、縣城より約十支里にして交通便利なり。人口約九千、道路較廣く市街は比較的清潔なり。

七 那 大(儋縣)

儋縣東南北門江の上流に位し、水陸の交通發達す。海口との間に自動車公路あり、約六百戸の小都會なるも、最近錫の産出に依り漸次繁榮を極めつゝあり。其他米穀、生豚、豆油、赤糖等を産す。

八 南 豐(臨高縣)

儋縣那大より五支里、臨高縣の西南隅に在り。往昔黎苗の居住地にして前清時代には撫黎局を此の地に設けたりしが、現在漢黎苗三族雜居し、人口一千二百あり豚、獸皮、米穀、豆油等を産す。

九 藤 橋(崖縣)

藤橋港の西北岸に位し、本縣黎民族居住區域産物の集散地にして二百餘戸に過ぎざるも、木材、椰子、藤、牛皮、魚類等を産す。

十 三 亞(崖縣)

三亞港の北岸に位し、商店四百餘戸に過ぎざるも、附近に鹽田七十餘箇所あり、鹽の産額多し。

第七節 民族及言語

本島の民族は之を大別して漢民族及黎民族の二種に分つことを得るも、黎民族は僅々二十萬に過ぎずと稱せらる。

一 漢民族

本島は古來毒蟲、大蛇棲息し瘴癘の地と目せられ、漢晋の時代には一再ならず之を放棄せむとしたることあり。唐代に及び版籍を置き軍を駐屯せしめたるが、軍人にして其の儘止まる者、或は官吏の罪せられて此の地に流配せられし

者、支那本土の内亂を避けて渡來せる者等あり。其の子孫繁榮し土着の民族たる黎族を漸次山間に驅逐し今日に及ぶ。民國二十五年一月支那側發表の戸口調査に據れば全島内漢民族の分布状況左表の如し。

縣別	戸數		人口		縣別	戸數		人口	
	戸	數	人	口		戸	數	人	口
瓊山縣	四、三三七	一、八三九	三、三三二	九、六六九	瓊江縣	一、四九九	一、三〇六	一、〇五九	一、〇五九
文昌縣	四、七九	一、三六五	一、五〇五	一、四九九	樂會縣	一、七三三	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六
定安縣	三、五五五	一、五八六	一、五八六	一、五八六	感恩縣	九、四三三	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六
澄邁縣	三、五五五	一、五八六	一、五八六	一、五八六	川縣	一、四〇五	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六
臨高縣	三、五五五	一、五八六	一、五八六	一、五八六	瓊東縣	一、四〇五	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六
陵水縣	一、九四〇	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三	合計	三、七〇五	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇
儋州縣	一、九四〇	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三					
合計	三、七〇五	二、一八〇	二、一八〇	二、一八〇					

此等漢民族は廣東省潮州方面より來れる者と、福建方面より來れる者にして、本島に於ては「渡客人」又は「福佬」と稱せらる（潮州はもと福建省に屬し、佬は俗語の尊稱なり）。又廣東省梅縣より西江流域に入る客家は古來往々土着の漢民族と闘争し、本島に逃じ來れるを以て廣客の稱あり、陵水縣人の如し。而して彼等は常に土着黎民族との間に紛糾を惹起したるが、先年廣東當局が警衛旅長陳漢光を特派し黎民族の鎮撫に當らしめたることあり、爾來殆んど衝突を起したることなしと謂はる。

此等漢民族の性格は概して素朴勤直なりと雖も、氣候及風土の影響を受け往々にして同じからざるものあり。瓊山、文

昌、澄邁、瓊東、定安、樂會、萬寧、陵水等は概ね海岸に接近し、古來支那本土及佛領印度支那等との交通開け、民度開化し一般に冒險進取の氣象に富み、華僑として遠く南洋各地に其の足跡を印する者少なからざるも、儋縣、臨高、昌江、感恩、崖縣等各地及五指山の山嶽地帯に黎民族と雜居し居る者は民度極めて低し。住民の家屋は瓦葺と茅葺の二種あるも、鄉村は陋屋にして窓殆んどなく、簷の高さ僅かに四五尺にして出入には身體を屈折せざるべからざるもの多し。下層階級は多く土間に坐して食事を爲し、或は簷下に寢具を用ひずして臥する者往々見受けらる。一般に衛生思想に乏しく生活程度低く、黎族及苗族と異らざる者すらあり。本島は茶の産地に乏しくらざるも住民の多くは之を嗜まず酒を嗜好し、糯米、燒酒、雙蒸と稱する強烈なる酒類の賣行き多し。彼等は米、薯類、玉蜀黍、粟等を常食とするも農家は多く粥を食し、且つ常に之に冷水を混する點は本土に居住する漢民族と大いに趣を異にする所なり。一般に檳榔を好み來客に對しては必ず之を勧め茶を用ふる者少く、婚姻に際しても結納として金錢の代りに之を送る風習あり。漢民族は一般に同姓間の結婚を忌避する者なるが、臨高縣には同姓間結婚の風行はれ、又澄邁、定安、儋縣等の女子は貞操觀念乏しく婚姻離合自由にして今猶ほ掠奪結婚の風習ありと云ふ。

本島居住漢民族の言語は概して廣東語の系統に屬すべしと雖も、廣州市に於ける所謂「省城話」とは異なり、特に海南島語と稱する者あり之を大別して六と爲す。

(イ) 瓊州語 福建語の漳州泉州音に類似す。使用範圍最も廣く、瓊山、文昌、澄邁、定安、瓊東、樂會、陵水、萬寧、感恩の各縣に行はる。海口に於ては之を海南語と稱せられ油頭語に類似し、所謂廣東語とは發音に於て多大の差異あり。官憲筋には多く廣東語使用せられ、現に海口には特に廣東語の學校あり。

(ロ) 儋州語 儋縣の王五、長坡一帶、崖縣及昌江縣城の人民之を使用す。普通語に類似する音を有するを以て地方民

は之を官語と稱す。

(ハ) 海濱語 儋縣及感恩の沿海に行はれ、廣東省城語、官語及客語の三種を混同したるが如き音を有す。

(ニ) 客語 廣東省東西北三江方面より移住せる者の常用にして、澄邁縣の大雲、儋縣の落居、海頭、那大、臨高縣の蘭洋、和舍、崖縣の三亞、定安縣の恩河、陵水、萬寧境界の牛嶺等に使用せらる。

(ホ) 臨高語 最も特殊の語音を有し、他の各方言とは全く異なり、緬甸語音に類似する云ふ者あるも明かならず、臨高縣北部の住民之を用ふ。

(ヘ) 艇家語 即ち廣東語なるが、廣東人はもと中原に在り艇を操る者を以て兵と爲せしより今猶此の名あり、崖縣の三亞港、儋縣の海頭港、昌江縣の昌江港等に用ひらる。

二、黎民族

一般に黎族と稱せらるゝも正確に云へば黎族と苗族とに分たれ、黎族は更に之を黎、伎、伴に細別せらる。總計約二十萬(一説には五十萬とあるも確かならず)あり、本島土着民族にして其の分佈状況左の如し。

(イ) 黎 崖縣の寧遠河、望樓溪各流域、昌江河上流の水滿峒及德霞、瓊山縣屯昌嶺、肚坡等、定安縣母端嶺、臨高縣白沙峒、儋縣七防峒、昌江縣大田、新寧、陵水縣大旗、寶亭、樂會縣、中平、森田等に居住す。

(ロ) 伎 多くは五指山の幽谷に居住し、一般の住民と往來すること稀なり。

(ハ) 伴 多くは崖縣城東方より藤橋に至る一帶昌江、感恩沿海、陵水縣大旗、和興等の海岸に居住す。

(ニ) 苗 山嶽を好み往々山を燒き開きて耕作することあるも、他に轉々移動し定住すること稀なり。儋州馮虛峒附近、樂東縣南茂峒、定安縣恩河附近、臨高縣番打、番陳、志遠、東門の四村、陵水縣大旗、山谷等に在り其の數極めて

少し。

黎族中熟黎は漢の言語を解し、城市に入りて交易を爲し、多く漢民族の姓を使用し、其の文化に全く同化せられたる者すらあり。彼等は歷朝の罪人が五指山に亡命し蠻族と雜婚したる者の後裔なりとも稱せらるゝも確かならず。黎族地を擇びて居住するや先着者は「峒主」又は「頭家」と稱し、峒(部落)の首領となる。峒は三村乃至十村より成り、各村長を「老爹」と謂ふ。頭家は全體世襲なるも時に村民の選舉又は官廳の任命するものなきに非ず。此等部落には系統的組織なく、村の周圍には幅廣く堅固なる竹林を植ゑて籬を造り外敵の侵入に備へ、又頭家或は族長の家には太鼓を置き之を鳴らして警報又は召集命令と爲す。

第八節 宗教及教育

一 宗教

漢人間に於ける宗教は支那本土に同じく佛教、道教、回教、基督教ありて特筆すべきものなし。佛教は大なる發展を見ざるも、道教は本島各地に之を見ざるなく、其の他の先輩道士を師傅と稱す。回教は僅かに崖縣の三亞港にあるのみにて信者約三四百人に過ぎず。注目すべきは基督教なるが、天主教は海口にピクパス、ソサエテイ派の教會を設置し、其の他瓊山、文昌、定安等の各縣に教會大小十二、附屬學校四、孤兒院を有し、現在島内に居住する宣教師男女十二名あり、洗禮を受けたる教徒約一千八百名ありと謂はる。新教は米國長老教會派に屬し、約四十年前より布教を開始し、海口、瓊州、嘉積、那大に教會を、海口に病院を、海口、那大、瓊州に小規模の小學校四、中學校二を經營し、布教、教育及醫療に従事する米國宣教師約二十名あり。

黎族には宗教なく天に幾多の神ありて萬物を分治すとの迷信あり。罹病は神怒に觸れたるものとして娘公師父公をして神意を伺はしめ、水牛を屠りて之を祭るの風習あり。

二 教育

海南島に於ける最高級學校は瓊山縣城に在る省立第六師範學校なり、瓊崖中學を民國九年に師範學校に改めたるものにして學生約七百名あり。本島師範教育に付ては右の外澄邁縣立中學附屬の師範講習所及瓊山縣立中學校内に鄉村師範班の設けあるに過ぎず。

中學校は省立、縣立及私立の三種あり。省立は瓊東縣嘉積市に在る省立第十三中學校、縣立は瓊山、文昌、澄邁、定安、儋縣、崖縣、陵水、萬寧、樂會、瓊東の各縣に各一校合計十校、私立は瓊山縣城及海口に各一校あり。此等各中學校は男女學生を加へ大體百名乃至三百名を有するも、樂會縣立初級中學のみは極めて少數なり。

小學教育は瓊山、文昌、瓊東、儋縣、定安等に其の校數多く、(瓊山三五七、文昌三一〇、定安三三八、儋縣一五〇、瓊東九八)極めて發達せるが如きも、程度低く設備を缺き、教師も亦多くは高等小學又は初級中學の卒業生にして師範學校の卒業生は極めて寥寥たり。全島小學校數一千四百、兒童約六萬人、其中女生約三千人にして女子教育は文昌縣最も發達し約二千の女生徒あり。

其他全島に約二百の學塾開かれ、約四千の子弟を教育し居り、圖書館は縣立四學校附屬(瓊山中學、第六師範、瓊海中學)のもの三にして圖書新聞閱覽所全島に三、四十箇所あり。黎民の教育に付ては第九初級國民學校が宣統元年陵水縣實存に創立せられたるを以て嚆矢と爲す。民國二年大旗にも第十初級國民學校を設立し、崖縣にも最近黎民教育養成所を設け居れり、又民國廿四年には黎民族の文化促進策とし

て省政府より瓊崖縣民文化協會設立せられ、専ら黎民の指導啓蒙に當り其の生活の改善に務めつゝあり。

第九節 財政及金融

一 中央財政關係

(1) 關稅收入

民國二十三年度に於ける瓊海關の關稅收入は國幣八十四萬七千三百四十六元にして民國二十二年度に比し十七萬三百六十元の減收を見たり。

右は同島の疲弊を物語る反面、輸入稅引上げに伴ふ密輸入の増加に基因するものと認めらる。特に本島は四面環海密輸入も容易なるが、其の取締を嚴重にしたる結果、民國二十四年度に於ては増加して約九十八萬七千元に達せり。

民國二十四年瓊海關關稅收入

(單位國幣元)

稅 別	金 額	稅 別	金 額
輸 入 稅	六三、八〇五元	輸 出 稅	元八、五〇〇
輸 出 稅	一、三三三、〇〇〇	救 災 附 加 稅	一、〇〇〇、〇〇〇
轉 口 稅	一、〇七三、〇〇〇	總 計	九七、六三六元
噸 稅	二、九三六元		

(ロ) 鹽稅

次に中央財源中主要なるものは鹽稅なり。廣東省統計局の統計月刊に據れば民國二十二年度の三亞鹽場の鹽の産額は五十八萬二千三百九十六擔なるが、本島鹽産額は廣東全省鹽産額の一割五分餘に當り、同年度廣東省鹽稅收入一千五百九十九萬三千四百三十六元餘に對し本島鹽稅收入は大體百七十六萬八千元を占め、本島に於ける中央財政收入の第一位を占むることとなるべし。

(ハ) 統稅

統稅は主として廣州及上海等より移入せらるる捲煙草、葉煙草、綿糸、麥粉、マツチ、アルコール、セメント等より徵收するものにして、二十三年度省銀行海口支店統稅收入報告に依れば左表の如し。

(單位國幣元)

稅別	金額	稅別	金額
烟草稅	五八六八元	捲煙草稅	三〇八五元
麥粉稅	三九八〇	アルコール稅	10,000
綿糸稅	五二四六〇		
マツチ稅	三六〇	合計	一〇九,三三七

以上の外に國稅收入には國幣印花稅一萬七千七百九十七元、附加稅二割、國防費一萬五千六百六十六元、爆發物專賣捐四千九百五十五元、雜捐收入一萬七千四百四十四元、酒稅四千九百六十四元等あり。

二 省財政關係

省財政收入中錢糧(地租)は最も重要なが、近年來農村經濟の崩壊に伴ひ徵收困難にして、民國二十二年度の稅收は四十三萬二千八百餘元なるも、各縣錢糧の徵收完全ならず、徵收金額も縣政費に流用し省庫に納入せず、累年決算に至らず。二十四年七月瓊山縣政府の發表に據れば累年錢糧の未納二十餘萬元に達す、以て省庫納入の遲滯を知るに足るべし。錢糧は民國十五年來二割を縣政府に留め地方經費に充て、八割を省政府に送附し各種錢糧の附加稅徵收を取締ることゝせるが、名目を改變して徵收を行ひ、稅率亦不劃一なるのみならず不公平を極め、人民の負擔益々過重となり積弊甚だしきものあり。

農産品專稅收入は洋米の輸入に依る課稅を以て最も重要なとす。陳濟棠政權當時廣東政府は關稅を徵收せずして洋米專稅を徵收し來りしが、民國二十五年七月中央に統一せらるるや、同年九月以來洋米關稅を徵收し專稅を廢止せり。

營業稅の施行は未だ各縣に普及し居らず。海口市に於ても商業凋落し資本額極めて少く、最も多きものも二萬元に過ぎず。民國二十三年度海口市に於ける營業稅徵收額は僅かに一萬四千八百餘元なり。

其の他各種の稅捐數十種に及べるも、廣東省三年施政計畫施行後民國二十二年多數を廢止せり。

民國二十三年省庫所屬海南島各稅收入表

(單位毫元)

稅別	金額	稅別	金額
豚捐	二八〇元	屠牛牛皮稅	五〇五元
		生牛稅	

税別	金額	税別	金額
洋布太物專稅	六二二	舶來農產品雜項專稅	三三〇
檳榔捐	〇	各種花捐附加稅	一六九
廣東省煤油販賣營業稅	四九六	烟牌照稅	三三〇
洋紙專稅	三三〇	酒牌照稅	三三〇
顏料專稅	六七九	防務經費	七六
糖類捐	三六	有獎義捐	一七〇
セメント附加稅	四三〇	計	七四六
			四九〇八九

三 縣地方財政

民國二十二年度海南島全縣地方歲入豫算四十九萬三千九百三十二元、歲出豫算五十八萬八千二百十二元にして即ち不足額九萬四千二百八十元なり。瓊山縣政府二十三年度收支報告に依れば、田賦捐歲入約四萬四百元の豫想なりしが、實收僅かに二萬五千元に過ぎず。戸口捐は全縣五萬二千八百九十六戸、平均一年一戸一元六十仙として八萬四千六百餘元の收入あるべきに拘らず六萬餘元に過ぎず。附加捐一萬四千二百餘元にして以上三項合計十三萬九千九百元の内四萬餘元の未徴收となれり。而して支出は警衛隊經費七萬二千餘元、各區鎮公所費四萬六千八百餘元なるを以て實に二萬餘元の不足なり。其の他の各縣亦略同様にして收支償はず、財政頗る困難を來し、國庫又は省庫に納入すべき部分より融通補填せざるを得ざる現狀に在り。

四 幣制

民國十五年廣東省銀行海口支店成立後、海口大洋券三十萬及二角、五角の銀行券を發行したる處、幾許もなくして吳道南獨立同行は掠奪に遇ひ、銀行券分散し使用せられざるに至れるが、同行再開後二十二年再び五圓、一圓、二角、一角の大洋券を發行し、二十三年四月迄に十二萬二千六百餘元に及び、二十四年六月迄に七萬五千六百餘元を増加し、準備金十九萬八千二百三十五元を有し、毎月公開検査を行ひ信用の維持に務め居れり。然れ共右は僅かに海口市場の一部に流通せらるゝものにして、一般には主として香港紙幣又は上海紙幣流通せらるゝは政變に依る不安に基くものなるべく、殊に香港紙幣の信用最も厚し。右の外補助貨幣として銅錢使用せらるゝこと勿論なるが廣東毫銀紙幣亦流通し居れり。

五 金融

錢莊は何れも零碎なる資本のものゝみにして營業振はず、多くは爲替業を營み貸付を行ふこと少し。銀行は僅かに海口市に廣東省銀行及中國銀行の支店あるのみにして、最近瓊崖實業銀行創立せられたりと雖も、其の營業は銀號に類似し業務亦幼稚なり。中國銀行は本島銀行の嚆矢にして民國三年成立せられたるが大なる發展を見ず、近年環境に應ずるため投資業務を兼營し貸付を増大せしめ居り、民國二十二年には擔保貸付三十二萬二千餘元に及び市場に多少の調劑を與へたるも、二十三年には十九萬八千元に減少せり。是れ同銀行が穩健主義を採れる結果なるが、一方預金は二十二年の三百二十三萬九千元に對し二十三年には三十七萬六千元を増加し三百六十一萬五千元に達せり。以て金融枯渴の一面を知るに足るべし。

廣東省銀行海口支店は省庫の金融機關にして、代理分金庫を務め政府公金の受入れ及送附を行ふ、故に從來擔保貸付等の業務を行はざりしも客年來海口市場の現金缺乏を顧慮し、三ヶ月乃至六ヶ月の短期貸付を行ふに至れり(利息最低一分、手續費一厘)然れ共右は健實なる商店の保證及相當の擔保を要し、金額亦少數に止まり、小商工業者は之に應ずるの途なく金融上大なる役割を演じ居らず。

最近省政府は全省金融救済の見地より各縣に縣立銀行及公營儲蓄貸借所の設置を許可し、資本額大洋十萬元の内官株二萬元、民株八萬元に暫定し、現に瓊山、文昌二縣に於て實現計畫中なる趣なるも、縣財政の困難と人民の疲弊に鑑み成立容易ならざるべしと史料せらる。

第十節 鑛業

本島鑛産物に付ては未だ殆んど調査の見るべきものなきも、海南島志、中國人張紹元及本邦人勝間田善作の調査竝に廣東省建設廳の發表等を綜合するに左の如し。

一金鑛

本島金鑛には山金と砂金の兩種あり、山金は石英岩、石灰岩、黃銅鑛、黃鐵鑛、硫磺鑛等の中に包含せられ、砂金は河底の砂礫中に混在す。現在發見せられ居る金鑛は瓊山縣元門峒、金牛嶺、昌江縣樂梅嶺、近黎山、赤義嶺、即根峒、感恩縣羅望嶺、古鎮峒、尾乍溪、陵水縣控銀嶺猴子嶺、瓊東縣帝涌村、禮浦嶺、定安縣烏石坡、船埠嶺、紅毛下峒、朝尚嶺、大塘、鴨塘村、嶺頭、金根村、南園嶺、元滿村、登哥嶺、崖縣九所、椰邪嶺、三亞港、儋縣、那金、白泡、南加祿、青山、六瓦、紗帽嶺、臨高縣蘭洋布、滙家山等なり。

(1) 瓊山縣元門峒鑛區

元門峒は小水峒とも稱し瓊山縣の最南部に在り、西南南粵東北嶺門より各百二十支里にして、曾て廣東省當局より人を派し調査せしめたることあるも、鑛脈黎民族の村落に散在し、黎民土地を賣却せざるため未だ開發に至らず。

(2) 儋縣紗帽嶺鑛區

本鑛區は砂金鑛にして那大市より南方約四十支里に在り、花崗岩より成り紗帽嶺の溪流中に在り。附近の住民之を採取するも其の方法當を得ず産出額少し。實驗に據れば土砂十二斗の中に一分二厘の純金を得たることありと謂ふ。

(3) 昌江縣樂梅嶺鑛區

昌江縣城東南百五十支里の地點に在り、土壤内に金鑛を包有す。

(4) 感恩縣羅望嶺鑛區

黎墩頭より百二十支里の地點に在り、本嶺の麓に砂金あり、土人之を採取す。

(5) 陵水縣猴子嶺

本嶺の面積廣大にして陵水縣城を距ること百餘支里、石英岩中に金鑛を含有す。

二 銀鑛

本島の銀鑛は多くは鉛鑛と混合し、鑛脈の分佈甚だ廣く、昌江縣神山、英潮港、白石嶺、澄邁縣銀嶺、黃嶺市附近の西溪嶺、定安縣烏石坡、船埠嶺、大塘、鴨塘村、嶺頭嶺、瓊東縣樂從、望天嶺、黎區、蒙天嶺、總口、陵水縣控銀嶺、崖縣北山嶺、儋縣調南市等に銀山ありと稱せらるゝも産額不明なり。

(1) 昌江縣神山鑛區

本山銀鑛は清朝時代に開採せることあるも、爆發藥の缺乏に依り停止したる儘なり。全山火成岩石六角晶にして高さ約二百尺十餘支里に亘り、昌江縣城を距ること北方約五支里の山麓を鑛區とす。

(ロ) 澄邁縣銀鑛鑛區

本鑛は瓊山縣との境界に在り、清朝時代に開採せられしことあるも採掘方法拙劣にして停止の儘なり。

三 銅鑛

(1) 五指山の側面簾瀾洞溪邊岩石の中に在り、黄金色を爲すを以て土人は之を稱して金鑛と爲すも、金銀を含む銅鑛なり。龍濟光時代資本を集めて經營せむとしたるも、戰亂起り龍軍敗退せるため開採に至らず、陵水縣溪通船の石硯を距ること百二十支里、地勢稍崎嶇なるも石硯以下は水運を利用し得べし。

(ロ) 昌江縣石碌山鑛區

本山は縣城を距ること百二十支里、儋縣海頭港より九十餘支里沿途平坦にして牛車を通じ得べく、同治四年開鑛せむとする者ありたるも反對者現はれ今猶放置せられ居れり。

(ハ) 崖縣廻風嶺鑛區

乾隆年間私人に依り經營せられたるも官廳に禁止せられたり。

(ニ) 澄邁縣石鼓嶺鑛區

澄邁縣第六區にして仁興市の東南六七支里に在り。

其の他昌江縣金久嶺、赤義嶺、陵水縣新峯嶺、銅嶺、樂會縣下偏村、崖縣安樂城、羅黎村、七弓内、山銅嶺、定安縣

嶺門等に在り。

四 鐵鑛

本島鐵鑛には赤鐵、磁鐵、褐鐵、マンガ含有鐵鑛等あり。

(1) 崖縣藤橋喃味獨田赤鐵鑛區

崖縣藤橋喃味第三弓に在り、藤橋を去ること三十支里にして鑛苗成分甚だ多く、嘉慶年間崖縣李某に依り開採せられたるも、官鑛を盜採するものなりとして禁止せられたり。

右の外榆林港獨田村紅頭嶺にも鐵鑛あり、面積約五方支里、榆林を距ること三十支里にして、曾て崖縣より廣州市に送附せられ、分析の結果百分の六十の純鐵を含めりと謂はる。

(ロ) 陵水縣坂頭嶺七弓及南實洞

鑛質喃味の夫に同じ。

(ハ) 澄邁縣石壁嶺鑛區

本嶺の高さ約三百尺、中興市を距ること二支里、縣城を距ること六十支里の地點に在り磁鐵鑛なり。

(ニ) 定安縣南牛嶺鑛區

定安縣白馬嶺の附近にして嘉積河岸の石壁市を距ること僅かに二十支里、道路平坦成分亦良好にして曾て開採せられしことあるも、土豪劣紳の干渉を受け停止せらる。

(ホ) 定安縣羊角嶺鑛區

是れ磁鐵鑛にして、縣城を距ること百二十支里、嶺の面積約十六方支里あり。

其の他萬寧縣和樂、崖縣鐵留巷、長枕嶺、鐵紅嶺、多港峒、小橋附近、榆林附近の紅泥嶺、田村、感恩縣毛嶺、瓊山縣文湖、尾水、瓊東縣下水村附近、黎區內、黃姜回、定安縣加那村、喃嘮峒、什楚溪、五指嶺南托溪附近、仕階、黑沙、先灣等に鐵山ありと稱せらる。

五 錫 礦

本島に於ける錫礦の分佈狀況は東西横列の形狀を爲し、東は瓊山、定安より西に臨高、澄邁、儋縣、感恩、樂東に連續す。西部は地質の關係より埋藏最も豊富なり。其の採掘方法未だ幼稚なりと雖も本島鑛業中最も發達せるものにして、民國二十三年始めて其の輸出を見たり。其の埋藏地左の如し。

(イ) 儋縣 第三區西坊村(那大市附近) 西田郷一帶、五嶺郷一帶、烏翔嶺一帶、五大寶山、瓦屋坑、南嶺村老屋田、田表郷大田村、軍化郷、灰寮村附近、日權村附近、沙田郷、大白河

(ロ) 瓊山縣 元滿峒

(ハ) 其の他樂會縣總溪口、定安縣喃嘮峒、龍門市附近、臨高縣洋龍田、樂東縣大田村等に埋藏せらる。

六 鉛 礦

多くは方鉛にして鑛石中には銀を含有し居り銀鉛鑛とも稱せらる。崖縣山脚村の銀山は民國十二、三年頃文昌縣人詹清泉なる者日本人を招聘して採掘に従事し、香港に輸出したることあるも、黎民族に襲撃せられ爾來中止せられたり。感恩縣峨溝峒の鉛山は曾て試掘せられしことあるも資本不足のため中止せり。

其の他陵水縣烏牙峒、瓊山縣文嶺、嶺鳩山、定安縣嶺門、仕階嶺、儋縣海頭、崖縣老麥溪、灣應嶺、昌江縣神仙嶺、峨鳩嶺等にも鉛鑛ありと謂はる。

七 水 銀

定安縣居丁市、崖縣洋淋山、樂會縣中園、干湘村、龍滾分溪等に在り。

八 アンチモニー 鑛

瓊山縣文嶺、嶺鳩山、定安縣白馬郷、崖縣安樂城、九所附近、澄邁縣南龍嶺等に在り。

九 石 炭

瓊山縣甲子、三江、天長湖、七星嶺、文昌縣蓬萊瓊東縣大路、陵水縣牛嶺、黃光棟嶺、我查嶺、陀興嶺、排港、崖縣榆林港附近官村、感恩縣鷄毛嶺等に在り。現に採掘せられ居るは甲子炭坑のみなり。

一〇 硫 黃

樂會縣嘉瀨河、瓊東縣孟里村、萬寧縣興隆、陵水縣黎盤淋水、崖縣九所附近、感恩縣石陀嶺、陀興嶺等に在り。

一一 ウルフラム 鑛

澄邁縣の南龍嶺、崖縣の安樂浮池及感恩縣の九所附近に在り。

一二 亞鉛 鑛

崖縣には多く港峒に發見せられたることあるも未だ調査行はれ居らず。

一三 石灰 石

儋縣那大、定安縣烏坡、感恩縣九所等に産す。土民は燒窯を設けて石灰を製す。質極めて純良なり、建築用及肥料等に用ひらる。

一四 油頁 岩

瓊山縣甲子市西北牛屎山、崖縣六羅黎村、感恩縣峨峯嶺、儋縣那末嶺、臨高縣第三區浸水、陵水縣望天塘等に發見せられたることあり。

第十一節 漁業及鹽業

一 漁業

本島は四面海を以て圍繞せられ、海岸線の曲折比較的多く、陵水、新村、三亞、保平、北黎、海頭、洋浦、白馬井、新盈、海口、清瀾等の良漁港少からず。近海には鯛、鮪、鰹、飛魚等豊富なりと稱せらるゝも未だ調査行はれず、十四五噸乃至四十噸級の漁船を使用するものなきに非ざるも、漁獲技術幼稚なるため未だ産額多からず。

二 鹽業

製鹽業は本島の重要産業の一なるが、三亞、北黎、陵水、臨高各地に鹽田多く、年産額約四十二萬公擔に上り、其の移出額年々百四十萬元あり。

民國二十二年度廣東省建設廳發表の各地に於ける鹽の産額左表の如し。

縣別	數量	縣別	數量
三亞	20,180,000 斤	陵水	4,110,000 斤
北黎	17,640,000 斤	昌水	11,600,000 斤
臨高	1,970,000 斤	文	1,100,000 斤

萬瓊塔	寧東市	海口	合計
	11,100,000		107,000
	2,000		2,280,000

第十二節 農業

本島は熱帯地に屬し、雨量潤澤にして農作物は其の耕作地面積の狭少と經營方法の幼稚なる割合には比較的豊富な。海南島志に依れば耕地及可耕地は全島の約四割にして三萬八千八百七十九方支里を占む。廣東省建設廳農林局の調査報告書に依れば全島面積約十萬方支里の中耕作地として利用し得べきもの約二割即ち七百萬町歩あり。右の中造林或は辛じて農作物の栽培に適するものを除き約九萬町歩の農作好適地あるも、其の面積は荒蕪地總面積の僅かに一割三分五厘強に過ぎず。本島農業の發達見るべきものなきを知るべし。又民國廿三年中山大學内瓊崖農業研究會の本島四縣五十二村に亘る農家戸數調査報告書に依れば即ち左表の通りにして、農民が本島人民の大部分を占むることを知るに足る。

縣名	調査村數	農家總數	農戶數				
			自作農	小作農	雇農	總計	
文昌	三五	二七四	一六八	四〇	五	二一三	
瓊東	四	四二	一七	七	三	二七	

縣名	調查村數	農家總數	農戶			總計
			自作農	小作農	雇農	
樂會縣	二六	一三四	九八	二七	一三五	
僑縣	七	四三	三五	一五	四二	
四縣	五	四七二	三〇〇	一七	四〇〇	
四縣	一	一	六二	三〇	九二	
對縣	一	一	一	一	一	
對村	一	一	一	一	一	
對總戶數			六二〇	一〇七	七二七	
對總農戶數			三〇二	八七	三八九	
對總農家數			一八	五	二三	
對總農家%			二	〇	二	

四〇

之を全島十三縣に就きて見るに農田面積合計二十五萬七千町歩、戸數合計三十八萬五千三百六（廣東省政府秘書處計股調査に基く）一戸平均〇、六六町歩（註國民政府の統計に據れば支那農一戸の耕地約一、四町歩なり）なり。本島人口の約八割を占むる農民が自作農多く小作農少なきは農民の所有耕地が比較的少なき結果にして、耕地分配の均等を得たる爲めには非ず、而も其の大部分は貧農なり。（海南島志に據れば所有耕地〇、三町歩以下の農戶約七割を占む）近來農村經濟破産に瀕し土地を賣却し或は之を抵當に入る者日に多きを加へ價格漸次下落し、多くは商人、地主、軍閥に買收せらる。民國十九年及び二十年の間崖縣に於ける土地所有權の移轉は三百十四件にして、其の内軍警の手に入れるもの百六十七件なりと云ふ（中華民報一卷五期）。尤も同地は土壤肥沃にして黎區全縣の八割を占め、漢人の土地投資特に多きに因るものなるも自ら他を推知するに難からざるべし。民國十九年と二十三年との文昌、瓊東、樂會、儋縣四縣に於ける土地二百坪の價格左表の如し（瓊崖農業研究會）。

縣名	年次	平均價格			
		一元	二元	三元	四元
文昌	民國九年	一元	二元	三元	四元
	民國九年	一元	二元	三元	四元
瓊東	民國九年	一元	二元	三元	四元
	民國九年	一元	二元	三元	四元
樂會	民國九年	一元	二元	三元	四元
	民國九年	一元	二元	三元	四元
儋縣	民國九年	一元	二元	三元	四元
	民國九年	一元	二元	三元	四元
平均		一元	二元	三元	四元
		一元	二元	三元	四元

本島耕地には普通農田の外族田、廟田、學田あり。族田とは太公田或は祭田とも稱し、祖先を祭るための公田なるが、文昌縣二十五村中族田を有するもの二十四村、樂會縣十六村中十五村、瓊東縣四村中一村、儋縣七村中一村なり。之を管理するものは普通一村中の年長者なり。此等公田は普通廻り持ち又は投票に依り租借せらる。廟田は廟の財産なるも共匪の神權打倒以來或は賣却せられ、或は地方公益團體の所有に歸し現在は極めて少し。本島は農業發達せざるため經濟難に陥り、農民の海外に出稼する者多く、特に文昌、瓊山、定安、瓊東、樂會、萬寧各縣の農民多く、主として暹羅、安南、南洋群島等に移住し所謂華僑となる。之がため本島に於ける農業經營は概ね婦女、子供、老人等の手に依り行はれ、文昌縣の如く九割迄婦女に依り耕作せらるる農村十村、八割一村、七割一村、六割一村、四割三村に上る状態なり。従つて本島農業は漸次頹廢の一途を辿りつゝあり。而して海外出稼者比較的少なき儋縣、陵水、崖縣、澄邁、臨高、感恩、昌江等の各縣と雖も自ら耕作すること少なく傭人を用ふること多し。蓋し工賃の低廉なるも民情懶惰なるに基くと謂はる。農業經營の目的亦婦女及び老人の生活を維持すれば足り、其の生活は極めて簡素にして一般に粗衣粗食に甘んじ、毫も農業に改良を加へんとするの意志なく、肥料を施すこと少し。文昌縣の如き數年間肥料を施さざるもの稀ならず。灌漑に付ても略同様にして樂會縣に於ては數町歩の中深さ約數十尺の井戸僅かに一個を掘り、龍骨車を以て右數町歩の農田に灌漑し居り、水旱害蟲災等に對して殆んど天命に是れ従ふ状態なり。

四一

り。農業經營技術の幼稚なること以上の如く、自然収入少なきため近來官憲の獎勵に依り副業として護謨園、椰子園、珈琲園業を經營し會社組織のもの亦少なからず、其の狀況左の如し。

一 椰子

椰子は本島主要産物の一なるが文昌縣の清瀾、東郊、陵水縣の新村港、陵水河一帶、崖縣の藤橋及三亞港に多く、其の他瓊東、樂會、萬寧の三縣之に次ぎ、澄邁、定安、瓊山、儋縣、保亭、樂東の諸縣に於ても栽培せられ、椰子園總數四十九、面積四百二十二町歩、一年總産額二千五、六百萬箇ありと稱せらる。

二 護謨

護謨は文昌縣の南陽、定安縣の石壁、樂會縣の椰子寨及南牛嶺、萬寧縣の鴨腸、甘喉、興隆、儋縣の那大に最も多く栽培せらる。總園數九十四、栽培面積約一萬町歩、一年産額約四千三百五十擔あり。

三 珈琲

珈琲は文昌縣の邁號、石壁、蓬萊、官回、南陽等に多く其の他萬寧縣の興隆、保亭縣の北崗、崖縣の水南郷、儋縣の那大、定安の石壁等に栽培するものあり。總園數六十九、栽培面積三百八十四・二町歩あるも産額多からず。

四 バインアップル

バインアップルは文昌縣の邁號、南陽、石壁、高龍、新橋等に多く、其の他には瓊山、定安、萬寧、陵水、崖縣等の各縣に適々栽培せらるゝも多からず、總園數七十一、面積三百二十町歩あり。

五 檳榔

檳榔は多く樂會縣の白石嶺、椰子寨、萬寧縣、鴨腸、興隆、保亭縣の北崗、崖縣の三王街、馬嶺、定安縣の嶺口、龍

塘、南閩、烏坡、嶺門等に産し其の他陵水、儋縣等各地にも栽培せられ、總園數七、其の栽培面積一千二百十三町歩あり。

六 天蠶絲

本島の天蠶絲は品質粗悪にして産額亦大ならざるも、専門家の間には相當注目せられ居れり。民國二十二年廣東建設廳の調査に據れば全島總産額約一萬五千斤にして、南呂、新市、十萬峒、烏赤、紅毛、水滿、興隆等に多く、就中十萬峒及水滿産品質最も優良なり。

第十三節 貿易

一 總説

本島文昌縣の便民、瓊東縣の嘉積、儋縣の那大、崖縣の藤橋等の四大市場は島内農産品又は海産物の集散地たるに止まり、輸移出入貿易は殆んど海口に於て行はるゝ狀況なり。而して本島の主たる國內貿易先は廣州、上海、汕頭なり。廣州より移入せらるゝものは砂糖、石油、石炭、マツチ、セメント、土布、捲煙草、藥品、紙等、上海よりは綿糸、土布、豆、麵類、小麥粉、捲煙草等、汕頭よりは紙、磁器、罐詰食料品等なるが、移出品としては廣州へは鹽、鹽魚、糠皮、瓜子、椰子、檳榔等、汕頭へは糠皮、木綿、籐等、上海へは粗糖、生薑、糠皮等なり。次に過去三ヶ年間に於ける海口港の貿易を概観するに、一九三三年の内外貿易總額一千四百九十萬元中、輸出入額は六百七十萬元、移出入額は八百二十萬元にして之を前年と比較すれば外國貿易は五割六分の激減となり、内國貿易は二割八分の増進を示せりと雖も貿易總額は三割一分の著減となれり。一九三四年の内外貿易總額一千三百四十萬元中、輸出入額は五

百三十萬元、移出入額は八百十萬元にして、前年に比し外國貿易は二割、内國貿易は一分、貿易總額に於ては各約一割の減退を見たり。一九三五年の内外貿易總額一千四百四十萬元中、輸出入額は五百十萬元、移出入額は九百三十萬元なるが、之を前年と對比すれば外國貿易は三分減、内國貿易は一割四分増となり、貿易總額に於ては七分の増進となり。

二 外國貿易

海口最近三ヶ年間の對外直接貿易を見るに一九三三年の輸出入貿易額合計六百七十二萬四千餘元中、輸入額は四百四十三萬九千餘元、輸出額は二百二十八萬四千餘元にして、前年に比し輸入は五割六分、輸出は五割七分の著減を見たり。其の原因は從來本島の對岸雷州海關分局の貿易額が同年より北海海關の統計中に計上せられたること、一九三二年以來島内に土匪及共匪横行し農作物を掠奪し、七月及九月に旱魃と風害あり、又本島と經濟的に密接なる關係ある香港の物價下落に加ふるに輸入關稅の引上と、廣東省政府の過重なる專稅徵收のため密輸出入が盛行はれたるに起因す。殊に本島は四面環海にして民船に依る對岸雷州半島との往來便利なるため密輸出入極めて容易なるが、一九三三年中海關監視船に拿捕せられたる民船四十二隻あり。海關統計中に掲記せられたる砂糖一千二百七十九擔の如き全部密輸入品として海關に押收せられたるものなりと言ふ。一九三四年の輸出入貿易額合計五百三十三萬一千餘元中輸入額は三百四十四萬八千餘元なるが、前年に對比し二割三分、輸出額は一百八十八萬二千餘元にして前年より一割七分の減少を見たり。輸出の減少は前年に旱魃と風害あり、本島輸出品の大宗を占むる牛、豚等畜産物の減少に因る。輸入は依然密輸入に依ること勿論なるが、石油、綿織物、セメント等の減少をも見逃すことを得ず。本島の産業は農業を主業とするも耕作面積比較的少く、而も農作方法は極めて幼稚にして農民の主食たる米は自給自足の域に達せず、年々暹羅米の輸入を仰ぎつゝある状態にして農村の疲弊甚しく、之が救済のため瓊崖實業局は農家の副業として砂糖、珈琲及護謨の栽培を奨励しつゝあり。

一九三五年の輸出入額合計五百五十八萬八千餘元中、輸入額は二百六十九萬三千元、輸出額は二百三十三萬六千五百元にして、輸入は二割一分の減少、輸出は二割六分の増加となり。輸入の減少は島内米の豐作に依り暹羅米の輸入が激減せるためなり。主要輸入品は鐵製品、小麥粉、石油、重油、セメントなるが、石油及セメントは廣東省製品のために漸次市場を奪はれつゝあり。輸出品の主なるものは依然牛及豚なり。由來本島は錫、金、銀、鉛、鐵等礦産物豐富なりと稱せらるゝも十分なる調査行はれず、資本金缺如と技術並經營方法の幼稚なるため未だ海外へ輸出するに至らず。茲に特記すべきは島内西北部那大に約十四の錫鑛山あり、三千名の鑛夫を使用し採掘に従事し居り、此等鑛山の九割は華僑の經營に屬し、一九三四年初めて香港へ九十六公擔輸出を見、一九三五年には八百三十六公擔輸出せられたり。

(1) 最近三箇年間海口主要輸出品

(單位國幣元)

品目	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
牛	五五〇頭	三六八九元	五三〇頭	三二八八元	八四四頭	三〇一五元
豚	五、七五五頭	一、九七五三元	四、四四〇頭	九六五五元	六、〇〇六頭	一、〇〇六元
家畜	一〇、二五五頭	五、六六三元	九、七四〇頭	一、三三三三元	一四、四五二頭	一、一〇七元
羊	一頭	二元	一頭	二元	一頭	二元
山羊	一頭	二元	一頭	二元	一頭	二元

品目	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
其他の動物	5,319	1,310	5,300	1,310	5,319	1,310
鶏卵	2,330	1,310	2,330	1,310	2,330	1,310
家禽	4,280	1,310	4,280	1,310	4,280	1,310
家鴨	1,570	1,310	1,570	1,310	1,570	1,310
ソノ	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
水牛皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
牛	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
牦牛皮及牦水牛皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
山羊皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
獸皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
鹿皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
豚皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
鳥皮	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
乾魚及鮮魚	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
其他魚類及海産物	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
藥材	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310

四六

品目	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
胡麻	4,370	1,310	4,370	1,310	4,370	1,310
竹器	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
魚網	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
錫製	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
金製	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310

(ロ) 最近三箇年間海口主要輸入品

(金單位ノ國幣元換算率一九三三年八一、九五二〇〇
一九三四年八一、九六七〇、一九三五年八一、八六六〇〇)

品目	一九三三年		一九三四年		一九三五年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
綿布	2,880	1,310	2,880	1,310	2,880	1,310
綿絲	5,000	1,310	5,000	1,310	5,000	1,310
綿毛	5,600	1,310	5,600	1,310	5,600	1,310
鋼製	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
自動車	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310
自動車部分	1,130	1,310	1,130	1,310	1,130	1,310

四七

三、内國貿易

海口最近三ヶ年間の内國貿易を見るに、一九三三年の移出入額合計八百二十萬元中、移入額は五百三十萬元、移出額は二百九十萬元にして、前年に比し移入は一割八分、移出は四割五分の激増を示せり。右は本年の對外直接貿易が輸入關稅の引上並密輸の盛んに行はるゝに至りたるに依り、前年より五割六分見當の著減を見せたるを反映し、外國品に換へ内國製品主として廣東省内生産品の需要旺盛となりたるものと認めらる。

一九三四年の移出入額合計八百十萬元中、移入額は四百八十萬元、移出額は三百三十萬元にして、之を前年に比すれば移出入額に於ては僅かに十萬元の減少となりたるも、移入額は九分減、移出額は一割四分の増加を示せり。
一九三五年の移出入額合計九百二十三萬餘元中、移入額は六百十八萬元、移出額は三百五萬元にして、移入は三割の増加、移出は七分の減少となりたり。移入の増大は島内産米の豐作に依り農民購買力の増進に依るものにして、廣東方面より多量の紙卷煙草、藥品、小麥粉、麵類、綿布、石油、セメント等の移入を見たり。移出品の主なるものは鹽、土糖、檳榔、牛膝皮、乾魚、乾果實等なり。

五〇

(イ) 重要移出品

種類	一九三三年	一九三四年	一九三五年
鹽	一、三三八、三七〇	一、三九〇、〇〇〇	一、四二〇、〇〇〇
赤粗糖	七〇、五五八	七四、七〇四	六九、二九三

(單位國幣元)

(ロ) 重要移入品

品名	一九三三年	一九三四年	一九三五年
乾果	六、九三三	二、四〇九	一、四七〇、四四四
檳榔	二、四九四、九六六	一、五七六、三七一	一、三六五、四四八
皮	一〇一、六四四	一、七〇五、五一一	一、三六五、四四八
魚	一、五〇四、〇〇〇	二、九五五、二二二	二、三二五、二二二
烏	五〇、九五〇	六、五五五、三三三	八、一八五、三三三
乾	三、七〇〇、〇〇〇	六、五五五、三三三	四、三三三、三三三
麻	三、三三三	四、三三三	二、六〇八、九
藥	三、三三三	四、三三三	二、六〇八、九
瓜	三、三三三	四、三三三	五、七二五、五

(單位國幣元)

品目	一九三三年	一九三四年	一九三五年
綿	一、五二六、八三三	一、三六四、一七六	一、八二五、五〇〇
綾	九、五七〇	二、五七〇、三三三	五、三三三、三三三
粗	五、七〇〇	四、四三三、三三三	四、六九四、四四四
土	四、三三三	四、三三三	八、〇五〇、〇〇〇
其	九、四三三	六、〇六八、〇〇〇	六、六七〇、〇〇〇
の			
他			
綿			
布			

五一

種 別	移 移		合 計
	入	出	
一九三三年	五萬九千七百零五	三萬九千七百零五	八萬九千九百一十
一九三四年	四萬三千七百三十三	三萬三千七百三十三	八萬七千五百零六
一九三五年	六萬八千三百三十三	三萬五千七百三十三	九萬四千一百零六

五四



昭和十二年五月八日印刷
昭和十二年五月十日發行

臺灣總督府熱帶產業調查會

臺北市榮町二丁目四番地
印刷人 江里口利三郎
臺北市榮町二丁目四番地
印刷所 江里口印刷工場